DENON

AV サラウンドアンプ

AVC-1509

取扱説明書

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は、いつでも見られるところに「保証書」・「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」と共に大切に保管してください。

ご使用になる前に

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

分解禁止

⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。

電源プラグをコンセントから抜け

● 記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜け

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したりしたとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。
お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。

必ず実施

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

必ず実施

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

必ず実施

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着しているときは

電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

禁止

内部に水などの液体や異物を入れない

機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水ぬれ禁止

水をかけたり、濡らしたりしない

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
火災・感電の原因となります。

分解禁止

ねじを外したり、分解や改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

接触禁止

雷が鳴り出したら

機器や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

禁止

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

水場での使用禁止

風呂・シャワー室では使用しない

火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない

こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

注意 禁止

付属の電源コードを使用する

他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。

必ず実施 禁止

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは

電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

必ず実施

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。
また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

必ず実施

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

必ず実施 禁止

電池を交換するときは

- 極性表示に注意し、表示通りに正しく入れる
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない

間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁止

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

必ず実施

壁や他の機器から少し離して設置する

放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁止

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いたりして使用する

禁止

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜け

移動させるときは

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜け

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

注意

5 年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

総目次

ご使用になる前に

接続のしかた

操作のしかた

Auto Setup（オートセットアップ）

System Setup（システムセットアップ）

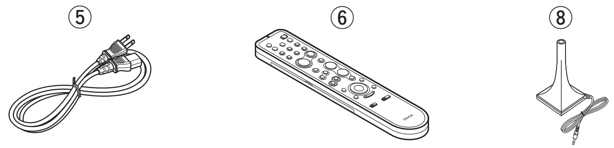
Surround Modes（サラウンドモード）

Parameter（パラメーター）

付属品について

本体とは別に下記の付属品が入っています。
お使いになる前にご確認ください。

① 取扱説明書（本書） …… 1
② 簡単セットアップガイド …… 1
③ 保証書（梱包箱に貼付） …… 1
④ 製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内 …… 1
⑤ 電源コード（長さ：約 1.7m）【本機専用】 …… 1
⑥ リモコン（RC-1104） …… 1
⑦ 単３形乾電池 …… 2
⑧ セットアップマイク
（DM-A409、コードの長さ：約 7.6m） …… 1



本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので実物と異なる場合があります。

ステレオ音のエチケット

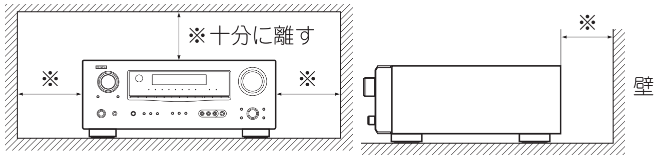


- 隣近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

取り扱い上のご注意

設置の際のご注意

放熱のため、本機の天面、後面および両側面と壁や他の AV 機器などとは十分に離して設置してください。



携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話を使用すると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置でお使いください。

お手入れについてのご注意

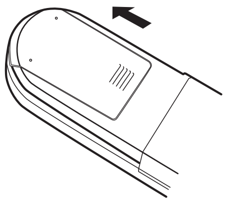
- キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。
  化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジン・シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質したり変色したりすることがありますので使用しないでください。

リモコンについて

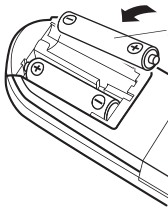
付属のリモコン（RC-1104）は、本機の操作以外に次の機器の操作もできます。
① DENON製コンポーネント製品
② DENON製以外のコンポーネント製品
- プリセット登録による設定（☞42～44ページ）

乾電池の入れかた

① つまみを引き上げながら、裏ぶたを取り外す。



② 乾電池（2本）を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。



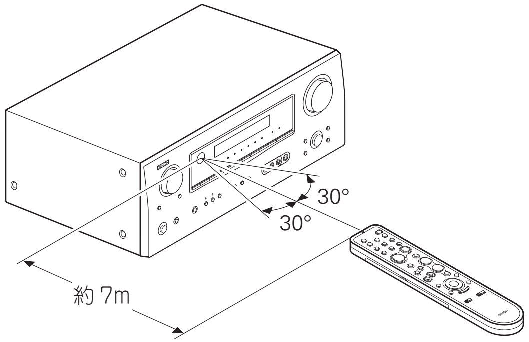
③ 裏ぶたを元通りにしてください。

ご注意

- リモコンには単３形乾電池をお使いください。
- リモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換して ください。）
- 乾電池は、リモコンの乾電池収納部の表示通りに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入させたりしないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内に付いた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を 入れてください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けてお使いください。



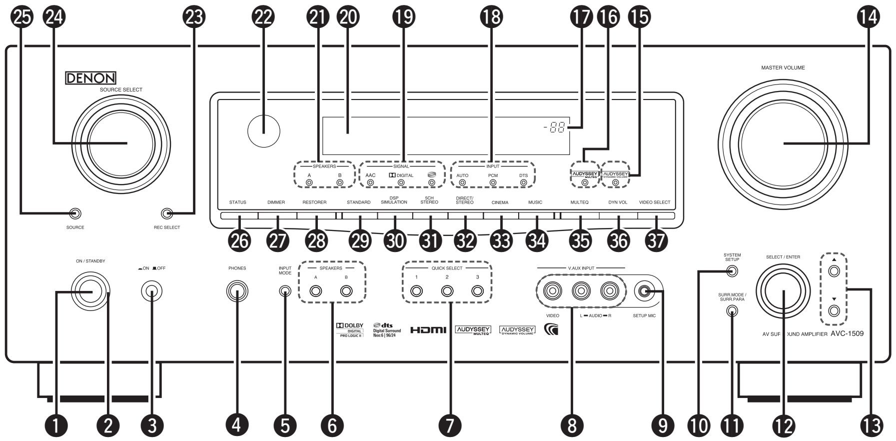
ご注意

リモコン受光部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線が当たると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。

各部の名前とはたらき

各部のはたらきなど詳しい説明については、( ) 内のページを参照してください。

フロントパネル



❶ 電源ボタン（ON/STANDBY）··················(36)

❷ 電源表示··················(36)

❸ 電源スイッチ（▂ON ■OFF）··················(36、41)

❹ ヘッドホン端子（PHONES）··················(37)

❺ 入力モード切り替えボタン
（INPUT MODE）··················(36)

❻ スピーカーボタン（SPEAKERS）······(37、41)

❼ クイックセレクトボタン
（QUICK SELECT）··················(41)

❽ V.AUX 入力端子（V.AUX INPUT）··················(15)

❾ セットアップマイク端子
（SETUP MIC）··················(18)

❿ システムセットアップボタン
（SYSTEM SETUP）··················(22)

⓫ サラウンドモード /
サラウンドパラメーターボタン
（SURR.MODE/SURR.PARA）··················(28、30)

⓬ セレクト / エンターつまみ
（SELECT/ENTER）

- 本体の **SELECT/ENTER** つまみは、リモコンのカーソル ◁ ▷ ボタンと同じ動作をします。
- つまみを左に回すとカーソル ◁ ボタン、右に回すとカーソル ▷ ボタンと同じ動作をします。
- つまみを押すと、リモコンの **ENTER** ボタンと同じ動作をします。

⓭ カーソルボタン（△▽）··················(22)

⓮ 主音量調節つまみ
（MASTER VOLUME）··················(37)

⓯ Audyssey Dynamic Volume 表示··················(33)

⓰ Audyssey MultEQ 表示··················(32)

⓱ 主音量表示

⓲ 入力モード表示（INPUT）··················(36)

⓳ 信号表示（SIGNAL）

⓴ ディスプレイ

㉑ スピーカー表示（SPEAKERS）··················(37)

㉒ リモコン受光部··················(6)

㉓ 録音出力切り替えボタン
（REC SELECT）··················(40)

㉔ 入力ソース切り替えつまみ
（SOURCE SELECT）··················(36)

㉕ ソース切り替えボタン（SOURCE）··················(36)

㉖ ステータスボタン（STATUS）··················(35)

㉗ ディマーボタン（DIMMER）··················(37)

㉘ RESTORER ボタン··················(34)

㉙ スタンダードボタン（STANDARD）··················(28)

㉚ DSP シミュレーションボタン
（DSP SIMULATION）··················(29)

㉛ 5 チャンネルステレオボタン
（5CH STEREO）··················(29)

㉜ ダイレクト / ステレオボタン
（DIRECT/STEREO）··················(29)

㉝ シネマボタン（CINEMA）··················(31)

㉞ ミュージックボタン（MUSIC）··················(31)

㉟ MULTEQ ボタン··················(32)

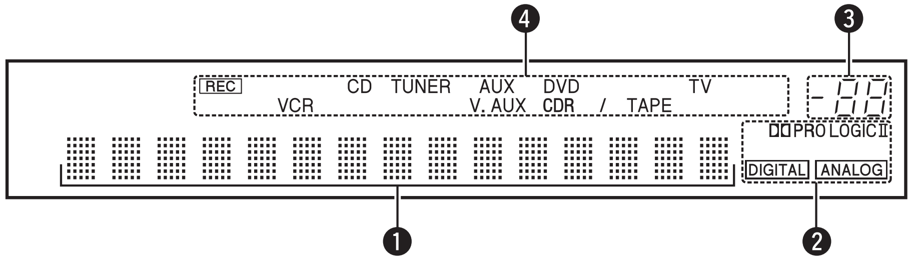
㊱ DYNAMIC VOLUME ボタン··················(32、33)

※Dynamic Volume について
Audyssey Dynamic Volume は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内におけるボリュームレベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をユーザーの好みのボリューム設定値に自動的に調整する技術です。
また、Dynamic Volume は Audyssey Dynamic EQ の技術をアルゴリズムの中に取り込むことによりボリュームレベルの調整時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

※Dynamic EQ について
Audyssey Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、ボリュームレベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Dynamic EQ は、Audyssey MultEQ® 技術と連動することによりすべてのボリュームレベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

㊲ ビデオセレクトボタン
（VIDEO SELECT）··················(37)

ディスプレイ



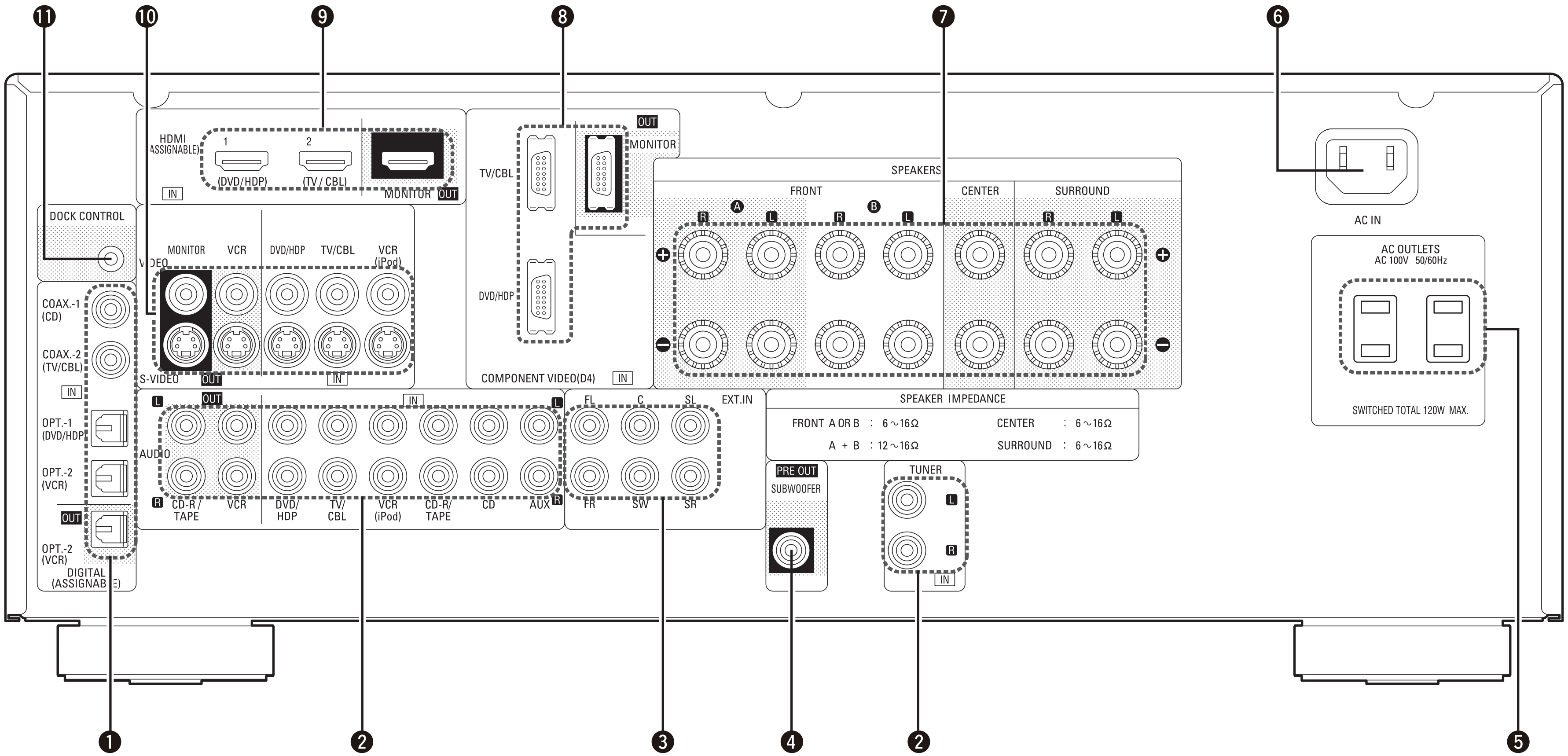
❶ インフォメーションディスプレイ

❷ 入力信号表示

❸ 主音量表示
音量レベルやシステムセットアップ時の項目番号を表示します。

❹ 録音出力ソース表示
RECOUT モードを選んでいるときに点灯します。（“SOURCE” を選んでいるときは、消灯します。）

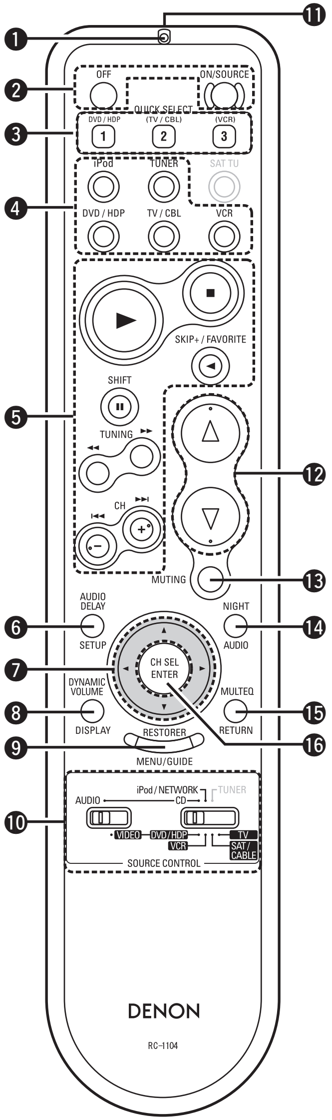
リアパネル



❶ デジタル音声端子（OPTICAL/COAXIAL）…………………（12 ～ 14）
❷ アナログ音声端子（AUDIO）…………（12 ～ 15）
❸ 外部入力端子（EXT. IN）……………………………（16）
❹ プリアウト端子（PRE OUT）……………………（11）
❺ AC アウトレット（AC OUTLETS）…………（16）
❻ AC インレット（AC IN）…………………………（16）
❼ スピーカー端子（SPEAKERS）…………………（11）
❽ コンポーネント / D4 ビデオ端子 ……（13、14）
❾ HDMI 端子 ………………………………………（12 ～ 14）
❿ ビデオ / S ビデオ端子（VIDEO/S-VIDEO）……………………（13 ～ 15）
⓫ ドックコントロール端子（DOCK CONTROL）………………………………（14）

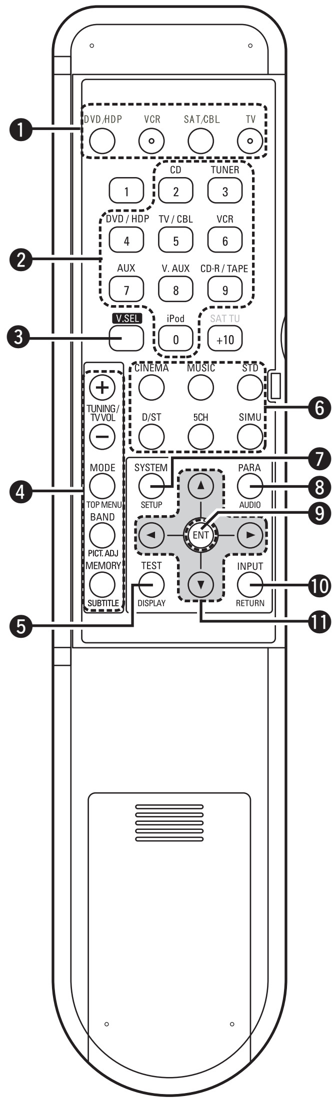
リモコン

【前面】



❶ 送信表示……………………………………………(42)
❷ 電源ボタン………………………………………(36、41)
❸ クイックセレクトボタン
（QUICK SELECT）……………………………(41)
❹ 入力ソース選択ボタン …………………………(36)
❺ システムボタン…………………………………(39、43)
❻ オーディオディレイボタン
（AUDIO DELAY）………………………………(26)
❼ カーソルボタン（△▽◁ ▷）…………………(22)
❽ DYNAMIC VOLUME ボタン …………(32、33)
❾ RESTORER ボタン ……………………………(34)
❿ ソースコントロールスイッチ
（SOURCE CONTROL）………………(19、38)
⓫ リモコン信号送信窓
⓬ 主音量調節ボタン ………………………………(37)
⓭ ミューティングボタン（MUTING）…………(37)
⓮ ナイトボタン（NIGHT）………………………(34)
⓯ MULTEQ ボタン ………………………………(32)
⓰ チャンネル切り替えボタン /
エンターボタン（ENTER）……………(22、40)

【裏面】



❶ 電源ボタン………………………………………(42、44)
❷ 入力ソース選択ボタン …………………………(36)
❸ ビデオセレクトボタン …………………………(37)
❹ チューナーシステムボタン……………(39、44)
❺ テストトーンボタン ……………………………(24)
❻ サラウンドモードボタン…………(28、29、31)
❼ システムセットアップボタン…………………(22)
❽ サラウンドパラメーターボタン………(28、30)
❾ エンターボタン…………………………………(22)
❿ 入力モードボタン ………………………………(36)
⓫ カーソルボタン（△▽◁ ▷）…………………(22)

ご注意

- 本機では、**SAT TU** ボタンおよび **SOURCE CONTROL 2** スイッチの“TUNER”は使用できません。
- 前面または裏面のボタンを強く押すと、それぞれの反対側のボタンも一緒に動作してしまう場合がありますので、ご注意ください。

接続のしかた

この取扱説明書では、対応するすべての音声信号方式や映像信号方式の接続方法を説明しています。接続する機器に合わせていずれかの接続方法をお選びください。
接続方法によっては、本機の設定が必要なものもあります。詳しくは、各接続項目の説明をご覧ください。

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくＬとＬ、ＲとＲを接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。ハムや雑音の原因となることがあります。

準備

接続に使用するケーブル

ご使用になる機器に合わせて、ケーブルをご用意ください。

音声ケーブル

同軸デジタル接続

（オレンジ）

同軸デジタル（75 Ωピンプラグ）ケーブル

光デジタル接続


光伝送ケーブル

アナログ接続（ステレオ）

（白）
（赤）


ステレオピンプラグケーブル

アナログ接続（モノラル、サブウーハー用）

（黒）

ピンプラグケーブル

スピーカー接続



スピーカーケーブル

映像ケーブル

コンポーネントビデオ接続


D 端子用ビデオケーブル

S ビデオ接続


S ビデオケーブル

ビデオ接続

（黄）

映像用 75 Ωピンプラグケーブル

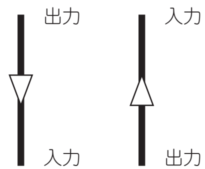
音声 & 映像ケーブル

HDMI 接続

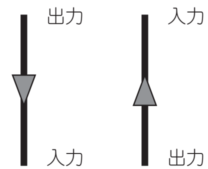

19 ピン HDMI ケーブル

信号方向

音声信号：



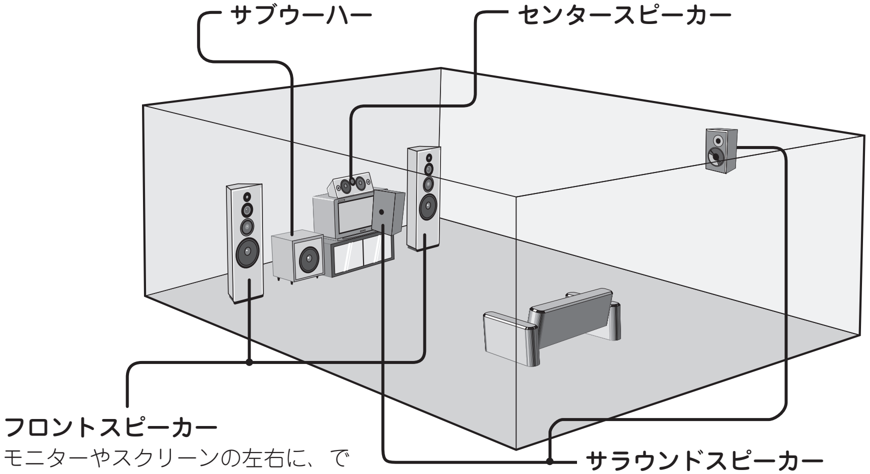
映像信号：



スピーカーの接続

スピーカーの設置

下図は、スピーカー（6 台）とモニターを組み合わせた基本的な設置例です。



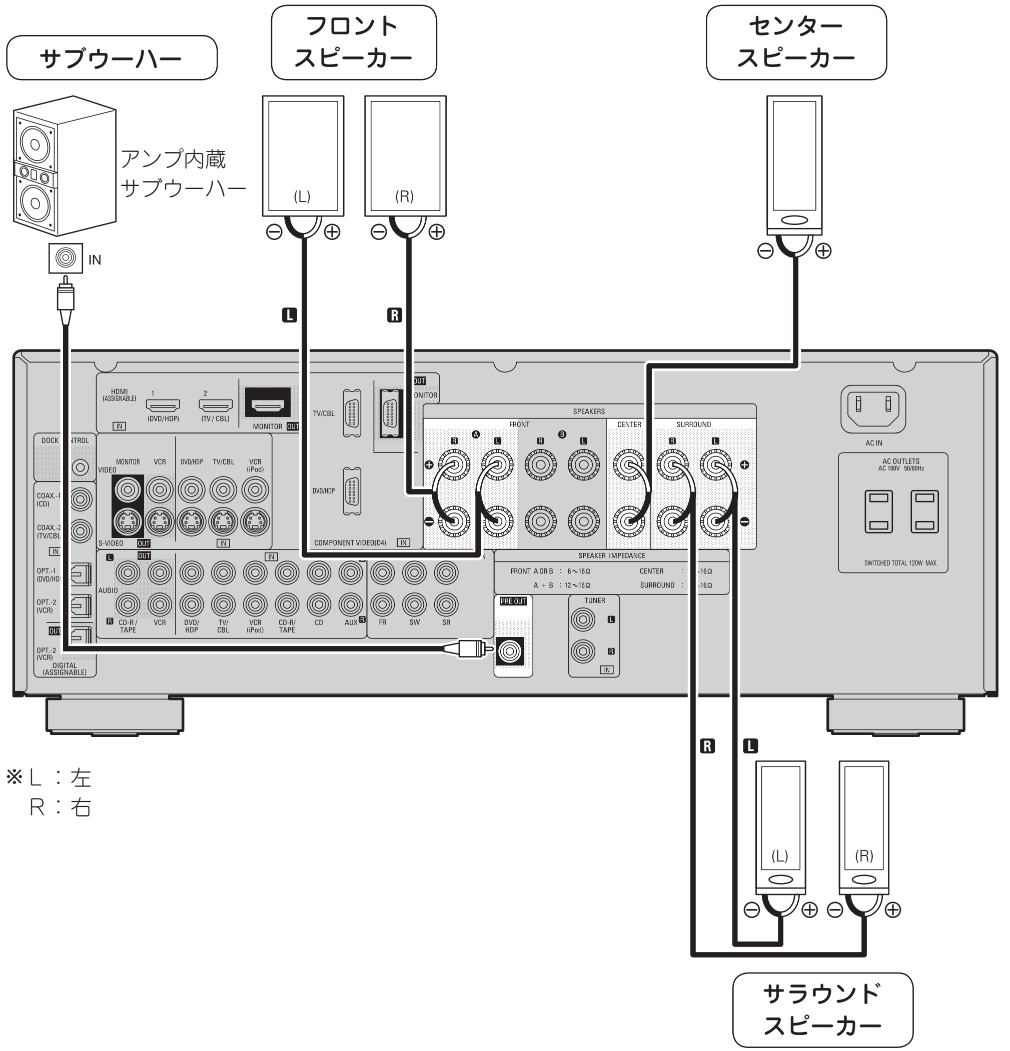
モニターやスクリーンの左右に、できるだけ画面と同一面に設置してください。

以下の表は、本機が対応している代表的なスピーカーの構成です。

	フロント A/B		センター	サラウンド		サブウーハー
	L	R		L	R	
5.1チャンネル	○	○	○	○	○	○
3.1チャンネル	○	○	○	–	–	○
2.1チャンネル	○	○	–	–	–	○
2チャンネル	○	○	–	–	–	–

スピーカーの接続

【例】5.1 チャンネル

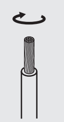


※L：左
R：右

スピーカーケーブルを接続する

本機とご使用になるスピーカーの左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、＋（赤）、－（黒）をよく確認して、同じ極性を接続してください。

1 **スピーカーケーブル先端の被覆を 10mm 程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理をおこなう。**



2 **スピーカー端子を左に回してゆるめる。**



3 **スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の根元に差し込む。**

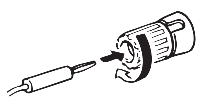


4 **スピーカー端子を右に回してしめる。**



バナナプラグを使用する場合

スピーカー端子を強くしめてから、バナナプラグを差し込む。



ご注意

- スピーカーは、インピーダンスが 6 ～ 16 Ωのものをお使いください。また、フロントスピーカー A/B を同時に使用する場合は、12 ～ 16 Ωのものをお使いください。
- スピーカーケーブルは、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、＋側と－側が接触したりすると、保護回路が動作します（☞「保護回路について」）。
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

保護回路について

芯線がリアパネルやねじに接触したり、＋側と－側が接触したりすると、保護回路が動作して電源表示が約 0.5 秒間隔で赤色に点滅します。
保護回路が動作すると、スピーカー出力は遮断され、電源はスタンバイ状態になります。電源を切るか、電源コードを抜いてからスピーカーケーブルや入力ケーブルの接続を確認してください。
また、指定されたインピーダンス以下のスピーカー（例：4 Ω）を使用して大音量で再生すると、本機の温度が上昇して、保護回路が動作する場合があります。電源はスタンバイ状態になり、電源表示が約 2 秒間隔で赤色に点滅します。
この場合は、電源を切って、周囲の通風状態を良くして、本機が冷えるのをお待ちください。
周囲の通風や接続に問題がないのにも関わらず保護回路が動作する場合は、本機が故障していることも考えられますので、電源を切った上で当社の修理相談窓口にご連絡ください。

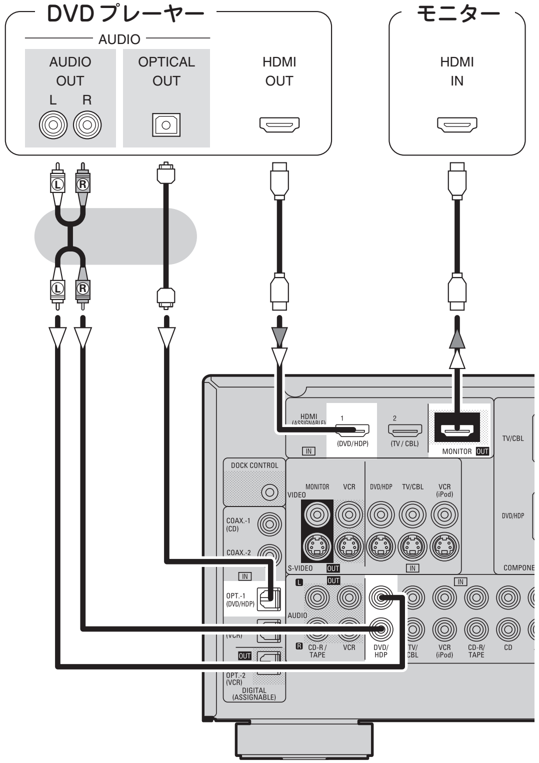
HDMI 端子付き機器

✎

HDMI で入力された信号をモニターに HDMI 出力する場合、モニターへは映像と音声を出力します。

ご注意

HDMI 端子から入力されたオーディオ信号を本機で再生することはできません。本機と接続しているスピーカーから音声を出力したい場合は、アナログまたはデジタルオーディオの接続が必要です。



※ 本機は、HDMI のバージョン 1.3a に対応しています。他のバージョンとは互換性がありますので、HDMI 端子を装備した機器と接続してご使用いただけます。
※ 本機は、30 ビットと 36 ビットの Deep Color に対応しています。
※ 本機は、HDMI ケーブルを使用して、HDMI 出力端子が装備されている機器と接続することができます。
※ 本機は、HDMI のバージョン 1.3a の Deep Color および xvYCC と互換性があります。

ご注意

- 本機を HDMI ケーブル経由で他の機器からコントロールすることはできません。
- 入力された映像信号とモニターの解像度が合っていない場合は、映像が出力されません。このような場合は、DVD プレーヤーの解像度をモニターが対応している解像度に合わせてください。
- HDMI 端子の接続には、HDMI ロゴが表記されているケーブル（HDMI 認証品）をお使いください。HDMI ロゴが表記されていないケーブル（HDMI 非認証品）を使用すると、正しく再生できない場合があります。
- モニターまたは DVD プレーヤーが Deep Color に対応していない場合、Deep Color での伝送ができません。
- モニターまたは DVD プレーヤーが xvYCC に対応していない場合、xvYCC での伝送ができません。

✎

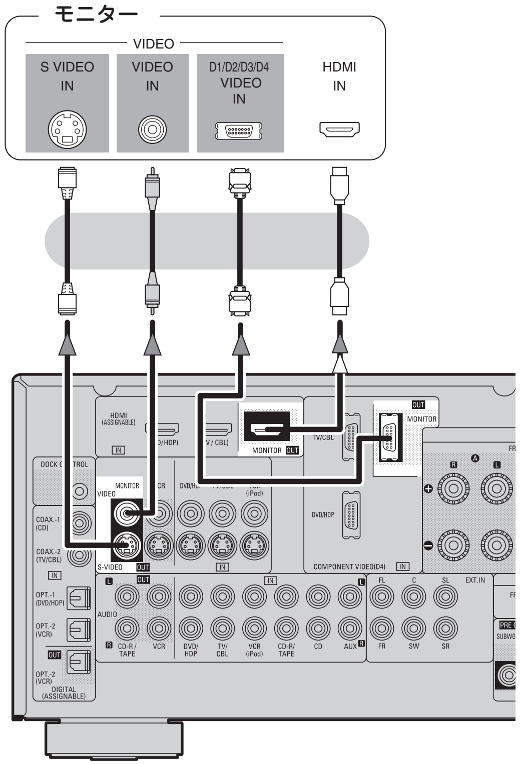
- 本機の HDMI 端子から入力されたオーディオおよびビデオ信号は、HDMI 出力端子に出力されます。そのため音声は HDMI で接続されたモニターから出力されますので、本機からの再生音を十分に楽しむために、テレビの音量を下げ、テレビから出力される音を消してください。
- 接続するモニターまたは DVD プレーヤーが DVI-D 端子のみ対応の場合は、HDMI/DVI 変換ケーブルをお使いください。**DVI ケーブルをお使いの場合は、音声信号は伝送されません。**
- Deep Color 対応の機器と接続する場合は、Deep Color 対応のケーブルをお使いください。

HDMI/DVI 変換ケーブル（アダプター）で接続する場合

- HDMI の映像信号は、DVI と原理的に互換性があります。
  DVI-D 端子付きモニターなどに接続する場合は、HDMI/DVI 変換ケーブルで接続できますが、機器の組み合わせによっては映像が出力されない場合があります。
- HDMI/DVI 変換アダプターを使用して接続する場合、接続したケーブルとの接触不良などにより映像が正しく出力されない場合があります。

モニターの接続

お使いになる端子を選んで接続してください。

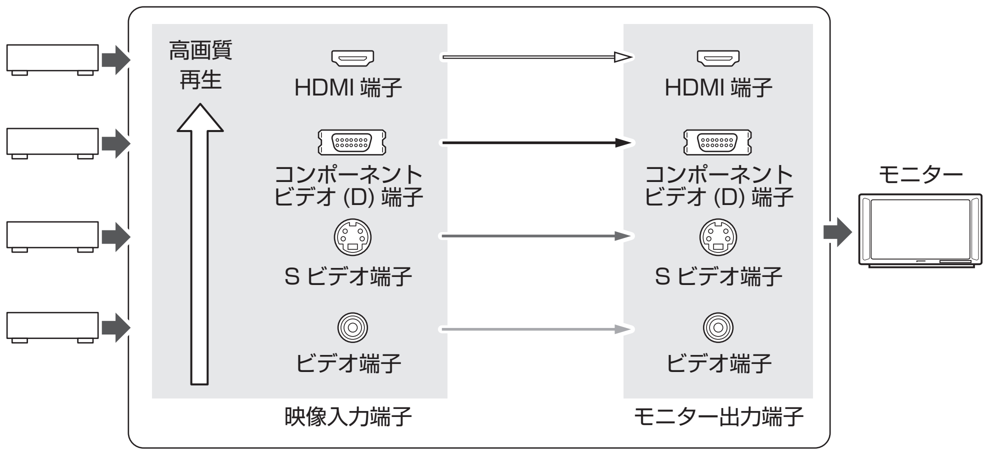


- 本機の D 端子は、D1 ～ D4（480i、480p、1080i、720p）の映像端子に対応しています。
- 本機の D 端子をコンポーネント変換ケーブルで接続した場合、D 端子から入力された解像度などの識別信号は出力されません。

ご注意

本機の映像の入出力は、HDMI/ コンポーネントビデオ /S ビデオ / ビデオの 4 通りの方式に対応しています。
本機のモニター出力端子からは、本機に入力した映像信号方式のまま出力しますので、**お使いになる入力端子と同じ種類のモニター出力端子を使って出力してください。**

【本機内部での映像信号の流れ】

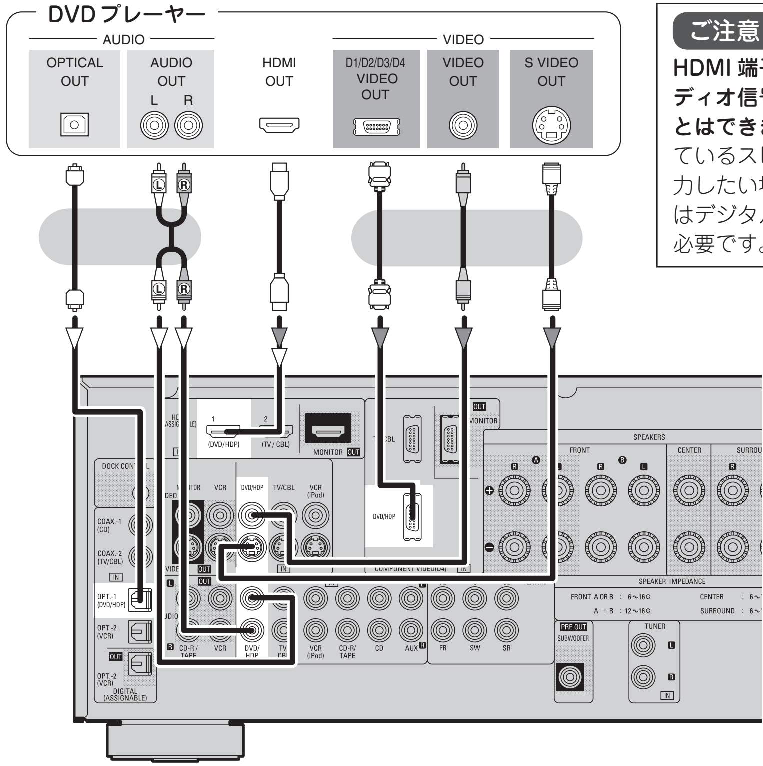


再生機器の接続

左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、入力（IN）、出力（OUT）を確認してから、正しく接続してください。

DVD プレーヤー

お使いになる端子を選んで接続してください。



ご注意

HDMI 端子から入力されたオーディオ信号を本機で再生することはできません。本機と接続しているスピーカーから音声を出力したい場合は、アナログまたはデジタルオーディオの接続が必要です。

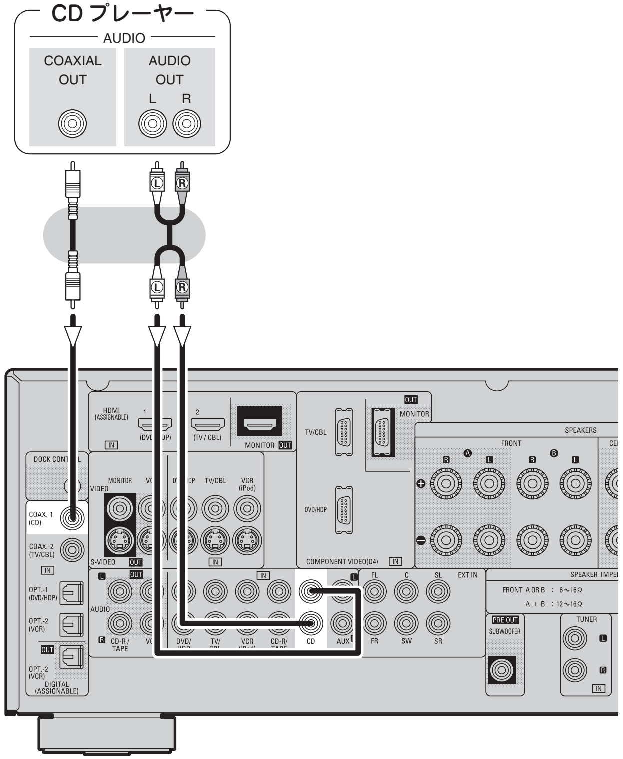
- ブルーレイディスクプレーヤーなどの HDP（High-Definition Player）機器も同じ方法で接続することができます。
- デジタル音声の接続に光伝送ケーブルをお使いになる場合は、“System Setup” - “Input Setup” - “Digital In Assign” の設定をおこなってください（☞25 ページ）。

ご注意

本機のモニター出力端子からは、本機に入力した映像信号方式のまま出力しますので、**お使いになる入力端子と同じ種類のモニター出力端子を使って出力してください。**

CD プレーヤー

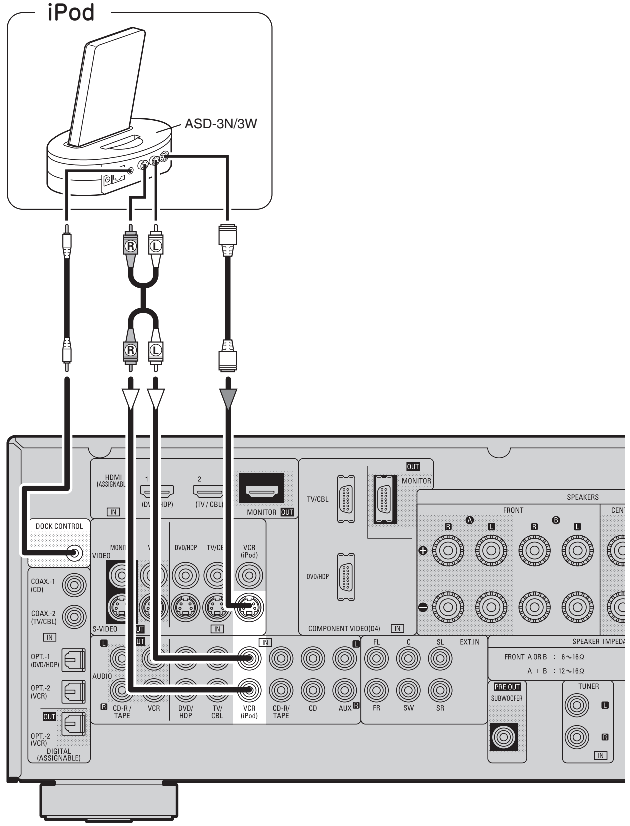
お使いになる端子を接続してください。



デジタル音声の接続に光伝送ケーブルをお使いになる場合は、“System Setup” - “Input Setup” - “Digital In Assign” の設定をおこなってください（☞25 ページ）。

iPod®

本機とiPodの接続には、DENON製iPod用コントロールドック（ASD-1R、ASD-11R、ASD-3N または ASD-3W、別売り）をお使いください。この場合、iPod用コントロールドック側の設定も必要です。詳しくは、iPod用コントロールドックの取扱説明書をご覧ください。



- 初期状態では、iPod を VCR（iPod）端子に接続してお使いいただけます。
- iPod を VCR（iPod）端子以外に割り当てる場合は、“System Setup” - “Input Setup” - “iPod Assign” の設定をおこなってください（☞25 ページ）。

ご注意

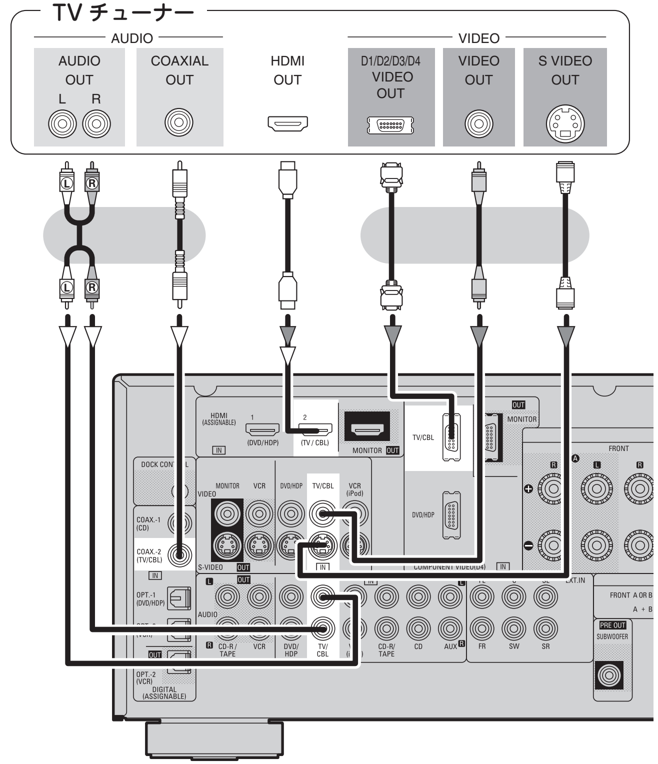
テレビで iPod の映像や写真を再生する場合には、S ビデオモニター出力端子をテレビに接続してください。

TV チューナー

お使いになる端子を接続してください。

ご注意

HDMI 端子から入力されたオーディオ信号を本機で再生することはできません。本機と接続しているスピーカーから音声を出力したい場合は、アナログまたはデジタルオーディオの接続が必要です。



デジタル音声の接続に同軸デジタル（75 Ωピンプラグ）ケーブルをお使いになる場合は、“System Setup” - “Input Setup” - “Digital In Assign” の設定をおこなってください（☞25 ページ）。

ご注意

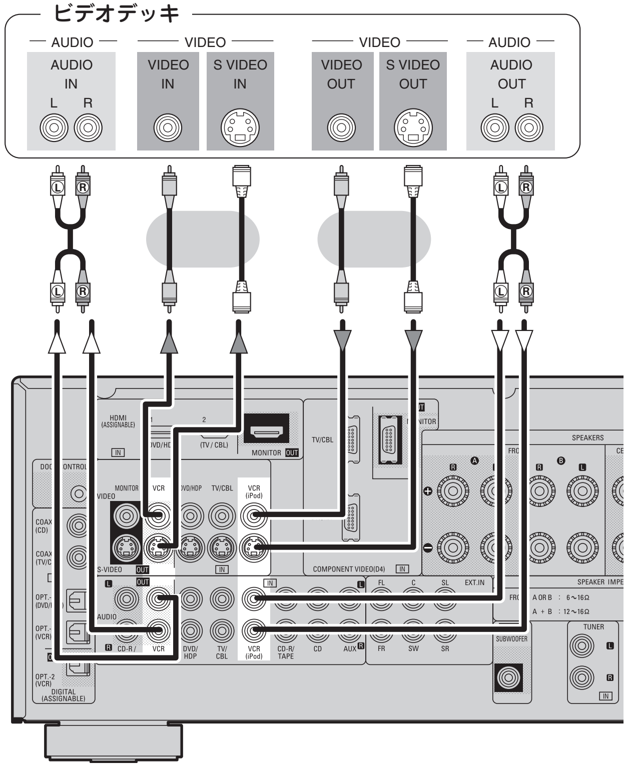
本機のモニター出力端子からは、本機に入力した映像信号方式のまま出力しますので、**お使いになる入力端子と同じ種類のモニター出力端子を使って出力してください。**

録音 / 録画機器の接続

左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、入力（IN）、出力（OUT）を確認してから、正しく接続してください。

ビデオデッキ

お使いになる端子を選んで接続してください。



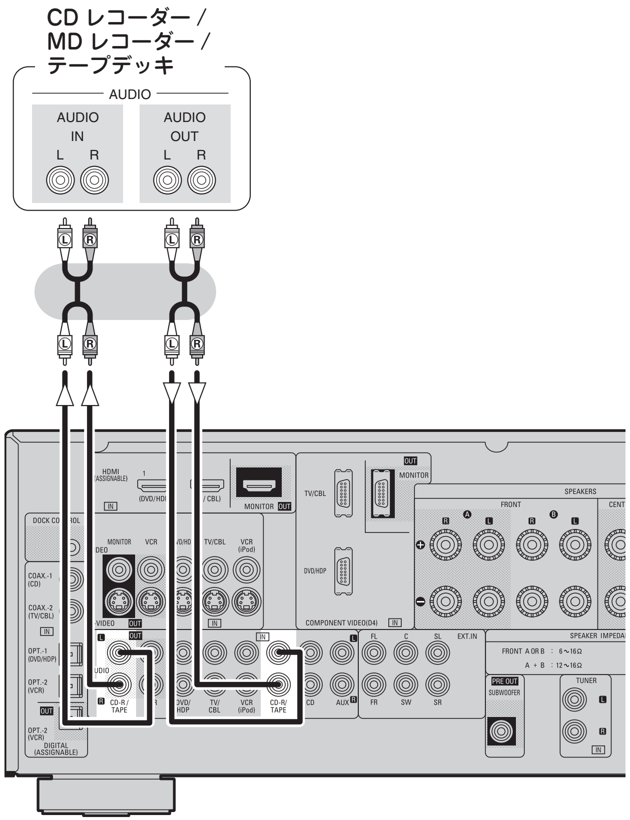
本機を通して録音する場合は、再生機器のケーブルの種類を本機のVCR出力端子に接続するケーブルの種類と同じにする必要があります。

【例 1】 TV 入力 → S ビデオケーブル：
VCR 出力 → S ビデオケーブル

【例 2】 TV 入力 → 映像用 75 Ωピンプラグケーブル：
VCR 出力 → 映像用 75 Ωピンプラグケーブル

CD レコーダー /MD レコーダー / テープデッキ

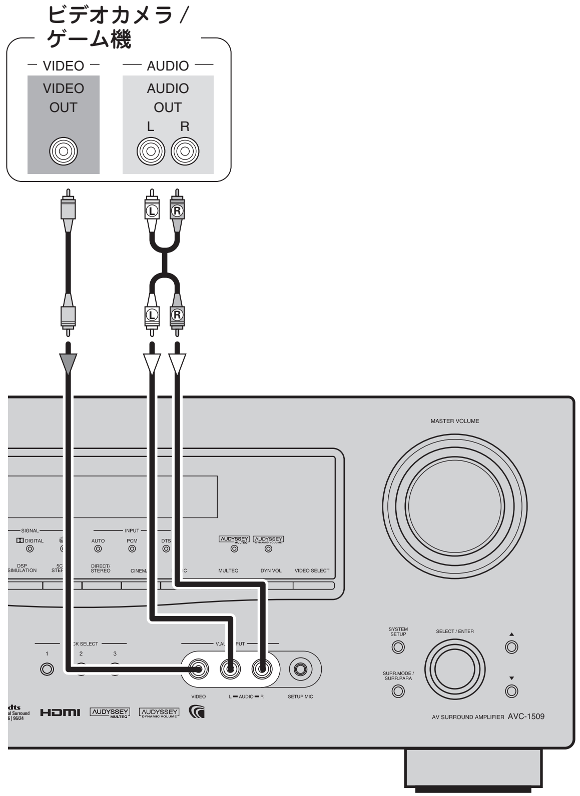
お使いになる機器の端子に合わせて、アナログ音声を録音する場合はアナログ接続を、デジタル音声を録音する場合はデジタル接続をしてください。



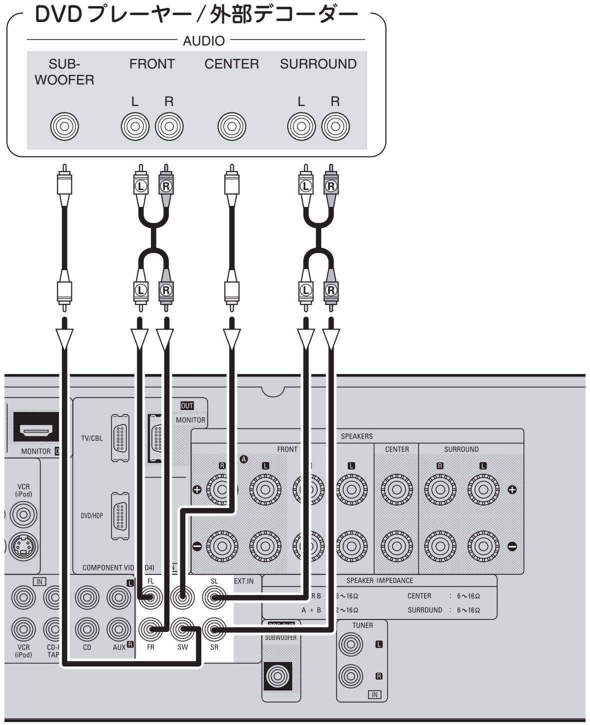
その他の機器の接続

左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、入力（IN）、出力（OUT）を確認してから、正しく接続してください。

ビデオカメラ / ゲーム機



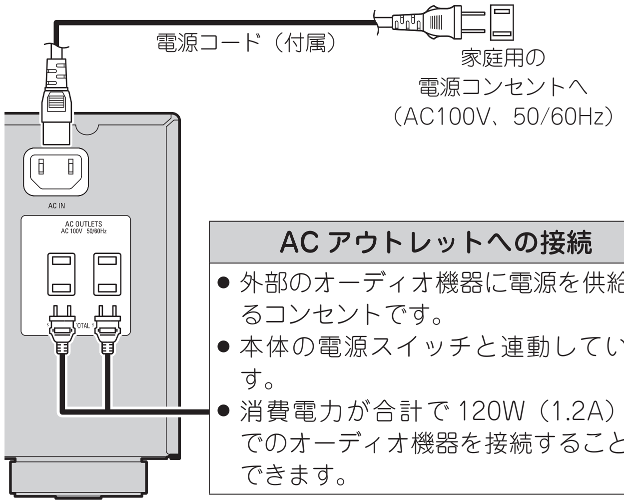
マルチチャンネル出力端子がある機器



- ハイビジョン（MUSE 3-1 方式）を接続するとき、サラウンドチャンネル出力がモノラルの場合には、別売りのモノ・ステレオケーブルをお使いください。
- 外部入力（EXT. IN）端子に入力されたアナログ入力信号を再生する場合は、本体の **INPUT MODE** ボタンまたはリモコンの **INPUT** ボタンを押して“EXT. IN”を選んでください（☞36 ページ）。
- 映像信号は DVD プレーヤーと同じ方法で接続することができます（☞13 ページ）。
- 著作権保護がかかったディスクを再生する場合は、本機の外部入力（EXT. IN）端子と DVD プレーヤーのアナログマルチチャンネル出力端子を接続してください。

電源コードの接続

すべての接続が終わってから電源コードを接続してください。



AC アウトレットへの接続

- 外部のオーディオ機器に電源を供給するコンセントです。
- 本体の電源スイッチと連動しています。
- 消費電力が合計で 120W（1.2A）までのオーディオ機器を接続することができます。

接続が終わったら

電源を入れる（☞36 ページ）

操作のしかた

メニューマップ

Auto Setup（☞18 ～ 21 ページ）

※ セットアップマイクを接続したとき

❑ Auto Setup
- Step 1：Speaker Detection
- Step 2：Measurement
- Step 3：Calculation
- Step 4：Check
- Step 5：Store

System Setup（☞22 ～ 27 ページ）

❑ Speaker Setup
（☞23、24 ページ）
- Speaker Configuration
- Subwoofer Mode Setup
- Distance
- Crossover Frequency
- Test Tone
- Restore

❑ Input Setup
（☞25、26 ページ）
- HDMI In Assign
- Digital In Assign
- iPod Assign
- Audio Delay
- EXT. IN Subwoofer Level

❑ Option Setup
（☞26、27 ページ）
- Volume Control
  - · Volume Limit
  - · Power On Level
  - · Mute Level
- Auto Surround Mode
- Direct Mode Setup
- Remote ID Setup
- Bilingual Mode

Parameter（☞30 ～ 34 ページ）

❑ Surround Parameter
- Mode
- Cinema EQ
- D.Comp
- LFE
- Center Image
- Panorama
- Dimension
- Center Width
- Delay Time
- Effect Level
- Room Size
- SW ATT
- Subwoofer
- Tone Control
- Bass
- Treble
- MultEQ
- Dynamic EQ
- Dynamic Volume
- DV Setting
- RESTORER
- Night Mode
- Default

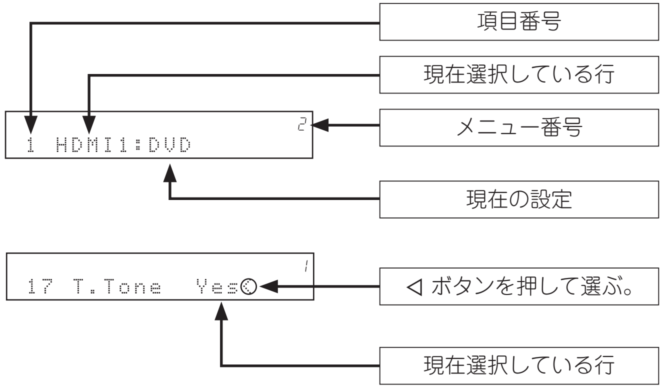
Information（☞35 ページ）

❑ Status

❑ Audio Input Signal

ディスプレイの表示例

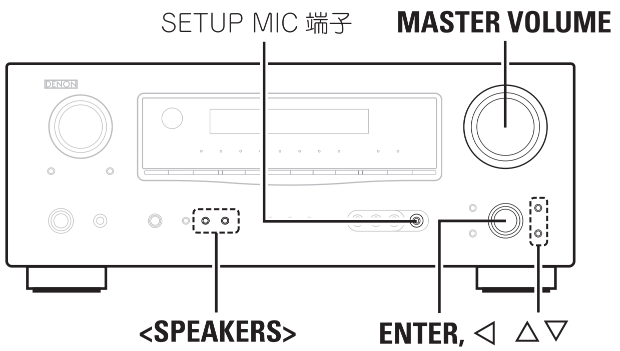
代表的な例を説明します。

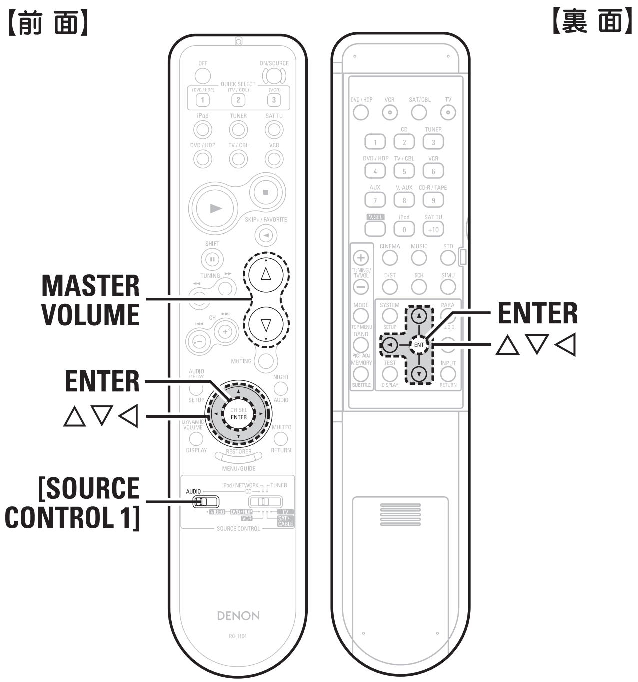


Auto Setup（オートセットアップ）

取説中のボタン名の表示について

本体とリモコンの両方にあるもの → **BUTTON**
本体のみにあるもの → **<BUTTON>**
リモコンのみにあるもの → **[BUTTON]**



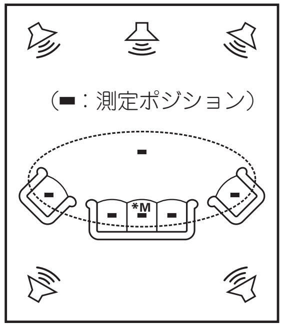


- 本機のオートセットアップ機能 Audyssey MultEQ は、リスニングルームの音響特性の測定・解析・設定を自動的におこない、最適なホームシアターオーディオ環境を提供します。
- オートセットアップは付属のセットアップマイク（DM-A409）を使っておこないます。
- 測定は、【例①】に示すように、リスニングエリア全体の複数の位置に付属のセットアップマイクを連続的に配置しておこないます。最善の結果を得るには、図のように 6 ヶ所で測定することをおすすめします。
リスニング環境が【例②】に示すように狭い場合でも、リスニングエリア全体の複数の位置で測定すると、より精度が高い設定ができます。

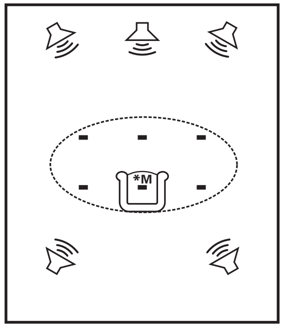
メインリスニングポジション（*M）について

メインリスニングポジションとは、リスナーが一人のときに音場のほぼ中心に座る位置をいいます。
Audyssey MultEQ はこの位置からの測定値を用いて、スピーカー距離、レベル、極性、およびサブウーハーの最適なクロスオーバー周波数を計算します。

【例①】



【例②】

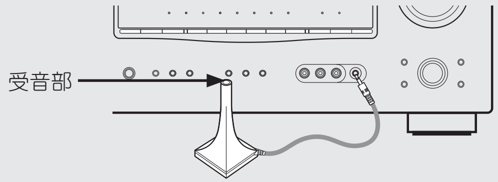


設定のマニュアル調節については、23、24 ページをご覧ください。

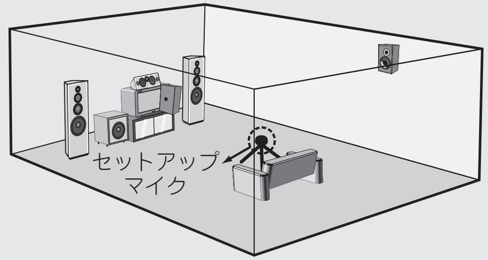
準備

1 **<SPEAKERS> でフロントスピーカー（フロント A、フロント B またはフロント A+B）を選ぶ。**

2 **付属のセットアップマイク（校正済み）を本体の SETUP MIC 端子に接続する。**
“Auto Set<Start” を表示します。



3 **セットアップマイクを三脚またはスタンドに取り付けて、メインリスニングポジションに設置し、受音部を耳の高さにする。**



※ セットアップマイクを手で持ちながらオートセットアップをおこなわないでください。
※ セットアップマイクと各スピーカーの間には障害になるものがないようにしてください。
※ セットアップマイクを座席の背もたれや壁の近くに置くと、音の反響で正しい測定ができない場合があります。

サブウーハーを使用するときは、オートセットアップをおこなう前に、次の設定をおこなってください。

- ダイレクトモード機能を搭載しているサブウーハーの場合は、“オン”にして音量と周波数の調節を無効にしてください。
- ダイレクトモード機能がないサブウーハーの場合は、次のように設定してください。
  - ・音量　：“12 時”の位置
  - ・クロスオーバー周波数：“最大 / 最高周波数”
  - ・ローパスフィルター　：“オフ”
  - ・スタンバイモード　：“オフ”

ご注意

- セットアップマイクは、オートセットアップが終わるまで抜かないでください。
- ヘッドホンを使用している場合は、オートセットアップをおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。

Auto Setup
（オートセットアップ）

お使いになるスピーカーに最適な設定を、自動的におこないます。

1 Auto Setup（オートセットアップ）

自動的に設定をします。

【オートセットアップの流れ】

Step 1：Speaker Detection（スピーカー構成の検出）
↓
Step 2：Measurement（測定）
↓
Step 3：Calculation（解析）
↓
Step 4：Check（解析結果）
↓
Step 5：Store（保存）

ご注意

- オートセットアップの測定中は、大きなテストトーンが出力されますが、これは正常な動作です。室内の騒音が大きいとさらにテストトーンの音量が大きくなります。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクとの間に立ったり、障害物を置いたりしないでください。正しい測定ができなくなります。
- できるだけ部屋を静かにしてください。騒音は測定の妨げとなります。窓を閉め、テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯などの電化製品をオフにしてください。測定はこれらの騒音の影響を受けることがあります。
  測定中、携帯電話はリスニングルームとは別の場所に置いてください。携帯電話の電波が測定を妨害する原因になることがあります（たとえ携帯電話を使用中でなくても）。
- 測定中に **MASTER VOLUME** を操作すると、測定を中止します。

オートセットアップについて

Audyssey MultEQオートセットアップ機能が、各スピーカーの有無やサイズ、チャンネルレベル、距離、クロスオーバー周波数の最適設定を自動的に計算します。また、Audyssey MultEQ がリスニングエリア内の音響歪みを補正します。
オートセットアップをはじめると、Audyssey MultEQ は各スピーカーからテストトーンを出力します。
スタートの前に、すべてのスピーカーを接続し、設置してください。

測定中にエラーメッセージが表示された場合は、「エラーメッセージ」をご覧になり、必要な処理をおこなってから再びオートセットアップをおこなってください（☞21 ページ）。

Step 1：Speaker Detection
（ステップ 1：スピーカー構成の検出）

スピーカーの接続の有無と極性を最初の測定位置（メインリスニングポジション）で検出し、スピーカーのサイズ、距離、チャンネルレベル、クロスオーバー周波数の測定をおこないます。

① “Auto Set<Start” の表示中に、◁ を押す。
　※ リモコンで操作する場合は、**[SOURCE CONTROL 1]** を “AUDIO” に切り替えてください。
- 測定中は “Measure:FL<Ccl”（“FL” は測定中のスピーカーをあらわします）を表示します。
- 測定が完了すると、検出されたスピーカーの本数を表示します。

【例】 5.1 チャンネルのスピーカー構成のとき

Speaker:3/2/.1

サブウーハー
有り：“.1”、無し：“0”
サラウンドスピーカーの本数
フロントスピーカーおよび
センタースピーカーの本数

- 測定をキャンセルしたい場合は、“Measure：FL<Ccl” を表示中に、◁ を押してください（“Ccl” は、キャンセルを意味します）。

- 接続している状態と異なる結果が出た場合や、エラーメッセージが表示された場合は、▽ で “Retry <” を表示させてから ◁ を押して、再度測定をおこなってください。
- 再測定後の結果も、接続している状態と異なる結果が出た場合や、再度エラーメッセージが表示された場合は、接続を間違えている可能性がありますので、必ず一度本機の電源を切ってからスピーカーの接続を確かめて、最初から測定をやり直してください。

ご注意

“Step 1” の測定をおこなった後に、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。

Step 2：Measurement（ステップ 2：測定）

① ▽ で “2nd Start<” を選び、◁ を押す。
- 2 ポジション目の測定をはじめます。

② セットアップマイクを 3 ポジション目に移動し、◁ を押す。
- 3 ポジション目の測定をはじめます。

③ 操作 ② をくり返しおこなう。
- 6 ヶ所の測定が完了すると、“Calculate <” を表示します。
- 5 ヶ所以下で測定を終了したい場合は、▽ で “Calculate <” を表示させてください。

6 ヶ所（メインリスニングポジションとその周囲の 5 ヶ所）で測定します。最善の結果を得るには、**6 ヶ所**で測定することをおすすめします。

Step 3：Calculation（ステップ 3：解析）

得られた測定値を自動的に解析し、リスニングルームにおけるそれぞれのスピーカーの特性を決定します。

① “Calculate” を表示中に、◁ を押す。
- “Calculating” を表示し、解析をはじめます。

- 解析には数分間かかります。
- 解析時間は、接続されたスピーカーの数と測定ポジション数に依存します。スピーカー数が多ければ多いほど、解析に要する時間は長くなります。

ご注意

測定をおこなった後に、スピーカーの接続やサブウーハーの接続を変更しないでください。もし変更した場合は、オートセットアップを再度おこなってください。

Step 4：Check（ステップ 4：解析結果）

解析が終わると、“Parameter Check <” を表示します。
◁ を押して、次の 4 項目の解析結果を確認します。

① △▽ で選び、◁ を押す。
- スピーカーの有無やサイズ
“SpConfig. Check <”
- リスニングポジションからのスピーカーの距離
“Distance Check <”
- スピーカーのチャンネルレベル
“Ch Level Check <”
- クロスオーバー周波数
“Crossover Check <”

② ▽△ で各スピーカーの表示を切り替える。

❑ 他の解析結果の項目に切り替えるには

ENTER を押す。
解析結果の項目に戻りますので、①の操作をくり返しおこなってください。

❑ “Step 5：Store（保存）” に進むには

クロスオーバー周波数の結果、または解析結果の項目を表示中に、**ENTER** を押す。
- “Store <” を表示します。

- 解析結果を確認せずに “Step 5” に進むには、“Parameter Check<” を表示中に △▽ で “Store <” を選びます。
- フィルター内蔵スピーカー（サブウーハーなど）では、実際の距離と異なる値が表示されることがあります。これはフィルターが信号に電気的遅延を加えているためです。

Step 5：Store（ステップ 5：保存）

オートセットアップの測定結果を、本機に保存します。

① “Store <” を表示中に、◁ を押す。
- 保存中は “Storing” が点滅します。
- 保存が終了すると、“Completed” の表示後、“Disconnect Mic” を表示します。

② 本機からセットアップマイクを抜く。

❑ 保存をキャンセルするには

“Store <” を表示中に △▽ を押して “Cancel <” を表示させ、◁ を押す。
- 測定されたすべてのオートセットアップデータを消去します。

ご注意

設定の登録中は、電源を切らないでください。

2 エラーメッセージ

スピーカーの設置や測定環境などにより、オートセットアップを完了できなかった場合に、エラーメッセージを表示します。エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目をチェックし、必要な処理をおこなってください。問題点を修正したら、再びオートセットアップをおこなってください。

エラーメッセージ（例）	原　因	処　理
Mic or Sp:NONE	●付属のセットアップマイクが接続されていません。 ●すべてのスピーカーが検出されません。	●付属のセットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続してください。 ●スピーカーの接続を確認してください。
Ambient Noise	●部屋の騒音が大きいため、正しく測定できません。 ●スピーカーやサブウーハーの音量が小さいため、正しく測定できません。	●騒音を発生する機器の電源を切るか、遠ざけてください。 ●周囲がより静かなときに再度試みてください。 ●スピーカーの設置や向きを確認してください。 ●サブウーハーの音量を調節してください。
Caution:Sp None ↕ 表示をくり返します。 FR	●表示されたスピーカーが検出されませんでした。 ・フロント左またはフロント右スピーカーが正しく検出されません。 ・サラウンドスピーカーの片方のチャンネルしか検出されていません。	●表示されたスピーカーの接続を確認してください。
Caution:Phase ↕ 表示をくり返します。 SL	●表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されています。	●表示されたスピーカーの極性を確認してください。 ●スピーカーによっては、正しく接続されていてもこのエラーメッセージが表示される場合があります。配線が正しければ、△▽ で“Skip <”を表示させてから、◁ を押してください。

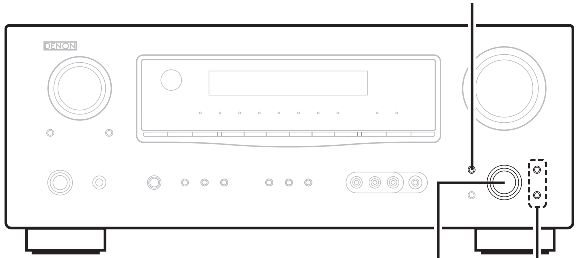
再度測定をおこなうには、“Retry”を選んでください。

ご注意 スピーカー接続を確認する前に、必ず電源を切ってください。

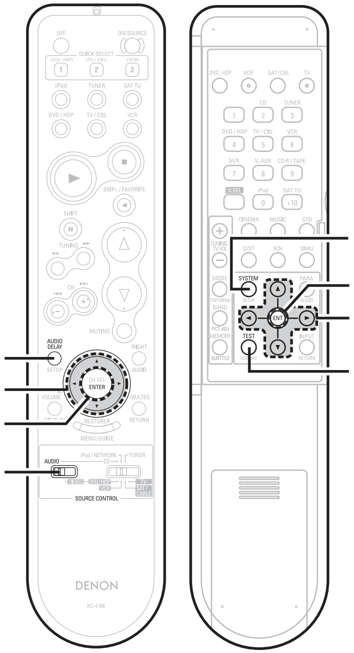
System Setup（システムセットアップ）

取説中のボタン名の表示について

本体とリモコンの両方にあるもの → **BUTTON**
本体のみにあるもの → **<BUTTON>**
リモコンのみにあるもの → **[BUTTON]**



【前 面】　【裏 面】



詳細な設定をおこないます。

設定操作のしかた

本体でもリモコンでも同じ操作ができます。

1 **SYSTEM SETUP を押す。**
“System Setup”を表示します。

※ リモコンで操作する場合は、**[SOURCE CONTROL 1]** を“AUDIO”に切り替えてください。

2 **ENTER を押す。**
３つのカテゴリーの設定メニューを表示します。
“1. Sp”： Speaker Setup（スピーカーの設定）
“2. In”： Input Setup（入力の設定）
“3. Op”： Option Setup（その他の設定）

- 選択中の項目番号のカーソルが点滅します。
- 各項目に含まれる詳細設定項目は「メニューマップ」（☞17 ページ）をご覧ください。

3 **◁ ▷ で設定したい項目を選び、ENTER を押す。**
各項目の詳細設定メニューを表示します。

4 **△▽ で変更したい項目を選び、◁ ▷ で設定を変更する。**

5 **ENTER または ▽ で次の項目を設定する。**

❑ 他のカテゴリーの設定項目に移るには

SYSTEM SETUP を押す。
• 設定メニュー表示に戻ります。
操作 3、4 をおこなう。

❑ 設定を終了するには

設定メニューを表示中に、**SYSTEM SETUP** を押す。
• 通常の表示に戻ります。

1 `*System Setup`

2 `1.Sp 2.In 3.Op`

3 `Speaker Setup`

4 `1 Front :Large`

お買い上げ時の設定（初期設定）の表示例

枠線が付いている項目は、お買い上げ時の設定項目または設定値です。

【選択できる項目】 Large　Small

1. Speaker Setup
（スピーカーの設定）

スピーカーを手動で設定する場合、またはオートセットアップで設定された内容を変更する場合におこなってください。

- 1 ~ 4 Speaker Configuration（スピーカーの構成）
- 5 Subwoofer Mode Setup（サブウーハーモード）
- 6 ~ 11 Distance（距離）
- 12 ~ 16 Crossover Frequency（クロスオーバー周波数）
- 17 Test Tone（テストトーン）
- 18 Restore（リストア）

1 ~ 4 Speaker Configuration（スピーカーの構成）

スピーカーの有り・無しや低音域再生能力によるスピーカーの大きさの分類を選びます。

【ディスプレイ】

```
1.Sp 2.In 3.Op
Speaker Setup
1 Front :Large
  ⋮
4 Subwoofer:Yes
```

1 Front Speaker（フロント）

フロントスピーカーの大きさを選びます。

【選択できる項目】 Large　Small

2 Center Speaker（センター）

センタースピーカーの有り・無しや大きさを選びます。

【選択できる項目】 Large　Small　None

3 Surround Speaker（サラウンド）

サラウンドスピーカーの有り・無しや大きさを選びます。

【選択できる項目】 Large　Small　None

4 Subwoofer（サブウーハー）

サブウーハーの有り・無しを選びます。

【選択できる項目】 Yes　No

Large：低音域を十分に再生できる能力があるスピーカーを使用するときに選びます。

Small：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用するときに選びます。

None：スピーカーを使用しないときに選びます。

Yes：サブウーハーを使用するときに選びます。

No：サブウーハーを使用しないときに選びます。

- "Large" と "Small" の選択は、スピーカーの外形で判断せずに、"Crossover Frequency"（☞24 ページ）で設定した周波数を基準とした低域再生能力で判断してください。
- "Front Speaker" を "Small" に設定すると、"Subwoofer" の設定は自動的に "Yes" になります。
- "Subwoofer" を "No" に設定すると、"Front Speaker" の設定は自動的に "Large" になります。
- "Front Speaker" を "Small" に設定した場合、"Center Speaker" および "Surround Speaker" を "Large" に設定することはできません。

5 Subwoofer Mode Setup（サブウーハーモードの設定）

サブウーハーで再生する低音域信号を選びます。

【ディスプレイ】

```
1.Sp 2.In 3.Op
Speaker Setup
5 SW Mode:Norm
```

【選択できる項目】

Norm："Small" に設定したチャンネルの低音域と LFE 信号を再生します。

+Main：すべてのチャンネルの低音域信号と LFE 信号を再生します。

- "System Setup" - "Speaker Setup" - "Subwoofer" の設定が "Yes" のときに設定できます。
- 音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られる方のモードを選んでください。
- 常にサブウーハーから低音域信号を出力したい場合は、"+Main" を選んでください。

6 ~ 11 Distance（距離）

リスニングポジションからスピーカーまでの距離を設定します。
設定をおこなう前に、リスニングポジションから各スピーカーまでの距離を測っておいてください。

【ディスプレイ】

```
1.Sp 2.In 3.Op
Speaker Setup
6  FL  :  3.6m
  ⋮
11 SW  :  3.6m
```

距離の設定

設定したいスピーカーを選び、距離を設定します。
測定した距離に最も近い値に設定してください。

【可変できる範囲】

0.0m ~ 18.0m：0.1m 単位で設定します。

初期設定値：
- FL / FR / C / SW ………… 3.6m
- SL / SR ……………………… 3.0m

ご注意

リスニングポジションから各スピーカーまでの距離は、6.0m 以下に設定してください。

各メニューの選択 / 設定 / 解除については「設定操作のしかた」（☞22 ページ）をご覧ください。

12 ～ 16 Crossover Frequency（クロスオーバー周波数）

サブウーハーから出力する各スピーカーの低音域信号を何 Hz 以下にするかを選びます。

【ディスプレイ】

```
1.Sp 2.In 3.Op
Speaker Setup
12Cr.Over: 80Hz
12Cr.Over:Adv
13 Cr.F  : 80Hz
```

F：フロント、C：センター、S：サラウンド、LFE：LFE を表します。

サブウーハーから出力される各スピーカーの低音域信号を、設定された周波数以下で出力します。
お使いになるスピーカーの低域再生能力に合わせて設定してください。

【選択できる項目】

40Hz　60Hz　**80Hz**　90Hz　100Hz　110Hz　120Hz　150Hz　200Hz　250Hz：
すべてのスピーカーの Crossover Frequency を、一括して設定します。

Advanced：
各スピーカーごとに、クロスオーバー周波数を設定します。

① “Cr.Over:Adv” が表示されたら、**ENTER** または ▽ を押す。
② ◁ ▷ を押して、各スピーカーのクロスオーバー周波数を設定する。
　▽ を押すたびに、設定するスピーカーが切り替わります。

【選択できる項目】

40Hz　60Hz　**80Hz**　90Hz　100Hz　110Hz　120Hz　150Hz　200Hz　250Hz

※ “LFE” の場合は、80Hz、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、150Hz、200Hz、250Hz の 8 モードから選択できます。

- “Advanced” の設定では、“System Setup” – “Subwoofer Mode Setup”（☞23 ページ）が “Norm” の場合は、“Speaker Configuration” で “Small” に設定されているスピーカーの設定ができます。また、+Main” の場合は、スピーカーの大きさに関係なく設定ができます。
- “Small” に設定されたスピーカーの場合、クロスオーバー周波数以下の音はカットして出力されます。カットされた低音域はサブウーハーまたはフロントスピーカーから出力されます。
- クロスオーバー周波数は、通常“80Hz”に設定してください。ただし、小型スピーカーを使用する場合は、より高い周波数に設定することをおすすめします。

17 Test Tone（テストトーン）

すべてのスピーカーからの音量が同じになるように各チャンネルのレベルを調節します。

【ディスプレイ】

```
1.Sp 2.In 3.Op
Speaker Setup
17 T.Tone   Yes<
T.Tone   Auto >
Test Tone On
      Auto-FL
```

Test Tone（テストトーン）

テストトーンの再生方法を選びます。

【選択できる項目】

Auto：テストトーンを出力するスピーカーを自動的に切り替えます。
Manual：テストトーンを出力するスピーカーを手動で選びます。

Test Tone Start（テストトーンスタート）

◁ で “Yes” を選び、◁ ▷ で “Auto” または “Manual” を選びます。
▽ を押すと、テストトーンが出力されます。

Auto：　◁ ▷ で音量を調節します。
Manual：△▽ で調節したいスピーカーを選び、◁ ▷ で音量を調節します。

調節が終わったら、**ENTER** を押してください。

【可変できる範囲】 –12dB ～ **0dB** ～ +12dB

リモコンでも操作できます

テストトーンによる調節は、下記の通りリモコンからでもおこなえます。
リモコンでのテストトーンによる調節は “Auto” のみで、STANDARD（Dolby/DTS サラウンド）モード時に有効です。調節したレベルは上記各サラウンドモードに自動的に記憶されます。
① **[TEST]** を押す。
　テストトーンが各スピーカーより出力されます。
② ◁ ▷ で各スピーカーの音量が同じになるように調節する。
③ 調節が終わったら、もう一度 **[TEST]** を押す。

- “Speaker Configuration” の設定で、“None” に設定されているスピーカーは表示されません。
- “Channel Level” を調節すると、調節された値がすべてのサラウンドモードに対して設定されます。

18 Restore（再測定）

オートセットアップの測定後に、“System Setup” - “Speaker Setup” でスピーカーの設定（スピーカーの構成、距離、チャンネルレベルおよびクロスオーバー周波数）を変えてから、それらの設定を再びオートセットアップの測定結果に戻すことができます。

◁ を押すと、Restore をはじめます。

【ディスプレイ】

```
1.Sp 2.In 3.Op
Speaker Setup
18 Restore Yes<
```


各メニューの選択 / 設定 / 解除については「設定操作のしかた」（☞22 ページ）をご覧ください。

2. Input Setup
（入力の設定）

入力ソースの選択や入力ソースの再生に関する設定をします。

1, 2	HDMI In Assign（HDMI 入力端子の割り当て）
3 ~ 6	Digital In Assign（デジタル入力端子の割り当て）
7	iPod Assign（iPod 用ドックの割り当て）
8	Audio Delay（オーディオディレイ）
9	EXT. IN Subwoofer Level（外部入力のサブウーハーレベル）

1, 2 HDMI In Assign
（HDMI 入力端子の割り当て）

HDMI 入力端子に割り当てる入力ソースを選びます。

【ディスプレイ】

```
1.Sp 2.In 3.Op
Input Setup
1 HDMI1:DVD
2 HDMI2:TV
```

【入力端子】 HDMI1 HDMI2

【割り当て可能な入力ソース】

DVD/HDP＊1 TV/CBL＊2 VCR V.AUX OFF

＊1：ディスプレイには、“DVD”を表示します。
＊2：ディスプレイには、“TV”を表示します。

入力端子	1 HDMI1	2 HDMI2
初期設定	DVD/HDP	TV/CBL

- HDMI では、映像信号と音声信号を同時に伝送します（HDMI オーディオ信号は、モニターから出力されます）。
  このとき、入力モードを“Auto”に設定してください。
- アナログ端子、デジタル端子および外部入力（EXT. IN）端子から入力された音声信号は、テレビには出力されません。

3 ~ 6 Digital In Assign
（デジタル入力端子の割り当て）

デジタル入力端子に割り当てる入力ソースを選びます。

【ディスプレイ】

```
1.Sp 2.In 3.Op
Input Setup
3 COAX1 : DVD
5 OPT1 : TV
```

【入力端子】 COAX1 COAX2 OPT1 OPT2

【割り当て可能な入力ソース】

TUNER CD AUX CDR DVD/HDP＊1 TV/CBL＊2 VCR V.AUX OFF

＊1：ディスプレイには、“DVD”を表示します。
＊2：ディスプレイには、“TV”を表示します。

入力端子	3 COAXIAL1	4 COAXIAL2	5 OPTICAL1	6 OPTICAL2
初期設定	CD	TV/CBL	DVD/HDP	VCR

7 iPod Assign
（iPod 用コントロールドックの割り当て）

iPod 用コントロールドックに割り当てる入力ソースを選びます。

【ディスプレイ】

```
1.Sp 2.In 3.Op
Input Setup
7 iPod : VCR
```

【割り当て可能な入力ソース】

TUNER CD AUX CDR DVD/HDP＊1 TV/CBL＊2 VCR V.AUX OFF

＊1：ディスプレイには、“DVD”を表示します。
＊2：ディスプレイには、“TV”を表示します。

初期設定では、iPod 用コントロールドックを VCR（iPod）端子に接続してお使いいただけます。

各メニューの選択 / 設定 / 解除については「設定操作のしかた」（☞22 ページ）をご覧ください。

8 Audio Delay（オーディオディレイ）

映像と音声の再生タイミングのずれを補正します。

【ディスプレイ】

```
1.Sp 2.In 3.Op
```
```
Input Setup              2
```
```
8 A.Delay:  0ms          2
```

音声信号の遅れ時間を設定します。

【可変できる範囲】 **0 ms** ～ **200 ms**

映画ソースなどで俳優の口の動きと声の出るタイミングなどを見て調整します。

リモコンでも操作できます

[AUDIO DELAY] を押す。

- “EXT. IN”、“DIRECT” および “STEREO” モード（Front Speaker：“Large”、Tone Control：“OFF”、MultEQ：“OFF”）で再生しているときは、調節できません。
- 入力ソースごとに記憶します。

9 EXT. IN Subwoofer Level（外部入力のサブウーハーレベル）

外部入力（EXT. IN）モードで再生するときのスピーカーの各種設定をします。
使用するプレーヤーに合わせて選びます。

【ディスプレイ】

```
1.Sp 2.In 3.Op
```
```
Input Setup              2
```
```
9 EXT.In SW:+15          2
```

【選択できる項目】

0dB **+5dB** **+10dB**：使用するプレーヤーに合わせて選びます。

+15dB：推奨レベルです。

3. Option Setup（その他の設定）

その他の設定をします。

- 1 ～ 3 Volume Control（音量の設定）
- 4 Auto Surround Mode（オートサラウンドモード）
- 5 Direct Mode Setup（ダイレクトモードの設定）
- 6 Remote ID Setup（リモート ID の設定）
- 7 Bilingual Mode（バイリンガルモード）

1 ～ 3 Volume Control（音量の設定）

音量の設定をします。

【ディスプレイ】

```
1.Sp 2.In 3.Op
```
```
Option Setup             3
```
```
1 Limit :OFF             3
```
```
2 P.On : Last            3
```
```
3 Mute : Full            3
```

1 Volume Limit（音量の上限）

主音量の上限を設定します。

【選択できる項目】

OFF：設定しません。

–20dB：–20dB まで音量を上げることができます。

–10dB：–10dB まで音量を上げることができます。

0dB：0dB まで音量を上げることができます。

2 Power On Level（電源オン時の音量）

電源を入れたときの音量を設定します。

【選択できる項目】

Last：記憶している前回の主音量で再生します。

– – –：常に電源を入れたときは消音状態です。

【可変できる範囲】

–80dB ~ +18dB：電源オン時の音量レベルを 1dB 単位で設定します。

※ “Volume Limit” で上限を設定した場合の可変レベルは、“-80dB ～設定したボリュームレベル” になります。

3 Mute Level（ミューティングレベル）

ミューティング時の音量の減衰量を設定します。

【選択できる項目】

Full：消音状態になります。

–40dB：現在の主音量から 40dB 下げて再生します。

–20dB：現在の主音量から 20dB 下げて再生します。

各メニューの選択 / 設定 / 解除については「設定操作のしかた」（☞22 ページ）をご覧ください。

4 Auto Surround Mode（オートサラウンドモード）

入力信号の種類ごとにサラウンドモードの設定を記憶します。

【ディスプレイ】

```
1.Sp 2.In 3.Op
Option Setup
4 AutoSurr.:ON
```

【選択できる項目】

ON：記憶します。前回設定をしたサラウンドモードで、自動的に再生します。

OFF：記憶しません。入力信号が変化してもサラウンドモードは切り替わりません。

オートサラウンドモードは、次の 3 種類の入力信号に対して、最後に再生したサラウンドモードを記憶させることができます。

① アナログや PCM の 2 チャンネル信号（STEREO）
② ドルビーデジタルや DTS または他のマルチチャンネル信号などの 2 チャンネル信号（DOLBY PLⅡ Cinema）
③ ドルビーデジタルや DTS、AAC などのマルチチャンネル信号（DOLBY/DTS SURROUND/AAC）

※（ ）内は初期設定。

5 Direct Mode Setup（ダイレクトモードの設定）

DIRECT モードで、MultEQ を使用するかどうかを設定します。

【ディスプレイ】

```
1.Sp 2.In 3.Op
Option Setup
5 Direct :OFF
```

【選択できる項目】

ON：“MultEQ”を使用します。

OFF：“MultEQ”を使用しません。

6 Remote ID Setup（リモート ID の設定）

リモコンの ID を設定します。

【ディスプレイ】

```
1.Sp 2.In 3.Op
Option Setup
6 Remote ID:1
```

【選択できる項目】 **1** **2** **3** **4**

ご注意

付属のリモコン（RC-1104）を使用する場合は、リモート ID を設定する必要はありません。

別売りのリモコン（RC-7000CI など）を使用する場合に設定してください。使用するリモコンと、本機のリモート ID を合わせてください。

7 Bilingual Mode（バイリンガルモード）

AAC ソースやドルビーデジタルソースの二重音声の出力内容を設定します。

【ディスプレイ】

```
1.Sp 2.In 3.Op
Option Setup
7 BLG: Main
```

【選択できる項目】

Main：主音声のみ出力します。

Sub：副音声のみ出力します。

Main/Sub：主音声は左チャンネルから、副音声は右チャンネルから出力します。

Main+Sub：主音声と副音声がミックスされて出力します。

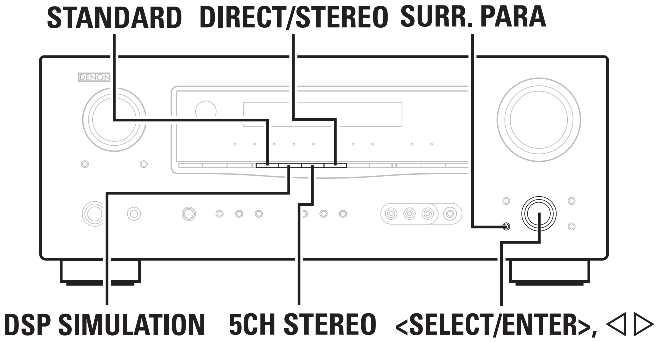
- バイリンガルモードは、AAC ソースおよびドルビーソースで、二重音声の情報がある場合のみ有効です。
- 二重音声の情報があるソースを録音する場合は、プレーヤーまたはチューナー側で録音したい音声に切り替えてください。
- “MPEG2 AAC”モードの場合、音声はセンタースピーカーより出力されます。フロントスピーカーで再生したい場合は、“STEREO”モードなどを選んでください。

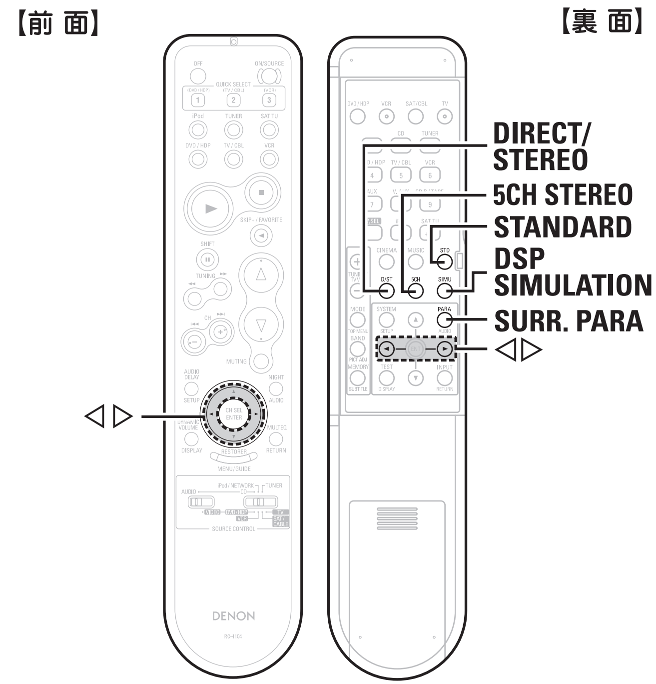
各メニューの選択 / 設定 / 解除については「設定操作のしかた」（☞22 ページ）をご覧ください。

Surround Modes（サラウンドモード）

取説中のボタン名の表示について

本体とリモコンの両方にあるもの ——→ **BUTTON**
本体のみにあるもの ——→ **<BUTTON>**
リモコンのみにあるもの ——→ **[BUTTON]**





① スタンダード再生

プログラムソースに合わせて、サラウンド再生を楽しむモードです。

2 チャンネルのソースをサラウンド再生する場合

サラウンドモードの選択のしかた

<SELECT/ENTER> を回すか、**STANDARD** を押して選ぶ。

【選択できる項目】

DOLBY PLⅡ ：DOLBY PLⅡ でデコードして、サラウンド再生をします。

DTS NEO:6 ：DTS　NEO:6 でデコードしてサラウンド再生をします。

再生するソースにあわせて選択できるモード

SURR. PARA を押す。"Mode" を表示させて、◁ ▷ ボタンでお好みのモードを選びます。

❑DOLBY PLⅡ

Cinema ：映画ソースに適したモードです。

Music ：音楽ソースに適したモードです。

Game ：ゲームに適したモードです。

PL ：プロロジック再生モードです。このモードを選ぶと、表示は "DOLBY PL" になります。

❑DTS NEO:6

Cinema ：映画ソースに適したモードです。

Music ：音楽ソースに適したモードです。

"Cinema"、"Music"、"Game"、"PL" モードは、"Surround Parameter" - "Mode" で選んでください（☞31 ページ）。

マルチチャンネルのソースを再生する場合（Dolby Digital、DTS、AAC など）

マルチチャンネルソースのスタンダード再生では、入力しているマルチチャンネル音声の信号形式を検出し、自動的にその専用デコーダーを動作させて、サラウンド再生をおこないます。

【選択できる項目】

STANDARD ：

次の表の "ディスプレイの表示" のいずれかのサラウンドモードは、入力信号により変わります。

入力信号		ディスプレイの表示
Dolby Digital ソース	DOLBY DIGITAL（2ch 以外）	DOLBY DIGITAL
DTS Surround ソース	DTS（5.1ch）/ DTS 96/24	DTS SURROUND
		DTS 96/24（＊）
MPEG-2 AAC	MPEG-2 AAC（5.1ch）	MPEG2 AAC
	MPEG-2 AAC（1+1ch）	MPEG2 AAC

＊：入力信号が "DTS 96/24" のときに表示します。

- 詳しくは、49 ページをご覧ください。
- **<SELECT/ENTER>** を回すか **STANDARD** を押すと、サラウンドモードを選ぶことができます。

MPEG-2 AAC について

- AAC 放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れることがあります。
- テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC 出力が "オフ" になっていたり、AAC 信号を PCM 信号に変換する設定になっていたりする場合があります。テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声や AAC 出力の設定をご確認ください。詳しくは、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

② DSP シミュレーション再生

7 通りの DENON オリジナルサラウンドの中から、プログラムソースや視聴するシチュエーションに応じてお好みのモードを選ぶことができます。
サラウンドパラメーター（☞47、48 ページ）を調節することで、よりリアルでパワフルな音場を再現することができます。

サラウンドモードの選択のしかた

<SELECT/ENTER> を回すか、**DSP SIMULATION** を押して選ぶ。

【選択できる項目】

5CH STEREO ＊1：ステレオサウンドをすべてのスピーカーで楽しむモードです。

ROCK ARENA：アリーナのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。

JAZZ CLUB：ライブハウスでのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。

MONO MOVIE ＊2：モノラルの映画ソースをサラウンド再生するモードです。

VIDEO GAME：ビデオゲームのサラウンドに適したモードです。

MATRIX：ステレオの音楽ソースに広がり感を加えて楽しむモードです。

VIRTUAL：フロントスピーカーやヘッドホンでサラウンド効果を楽しむモードです。

＊1：“5CH STEREO”は、**5CH STEREO** を押しても選べます。
＊2：MONO MOVIE モードでモノラル録音ソースを再生する場合、片チャンネル（左または右）では音が片寄るため、両チャンネルに入力してください。

再生するプログラムソースによっては、十分な効果が得られない場合があります。このような場合は、各モードを試してお好みの音場でお楽しみください。

③ ダイレクト再生

モードの選択のしかた

<SELECT/ENTER> を回すか、**DIRECT/STEREO** を押して選ぶ。

【選択する項目】

DIRECT：

音質調節回路を通さず、高音質で再生するモードです。
入力信号のチャンネルのまま音声を出力します。

入力信号	ディスプレイ表示
アナログ信号 / PCM (2ch)/ DOLBY DIGITAL ソース / DTS ソース / その他の 2ch のデジタル信号	DIRECT

詳しくは、49 ページをご覧ください。

④ ステレオ再生

モードの選択のしかた

<SELECT/ENTER> を回すか、**DIRECT/STEREO** を押して選ぶ。

【選択する項目】

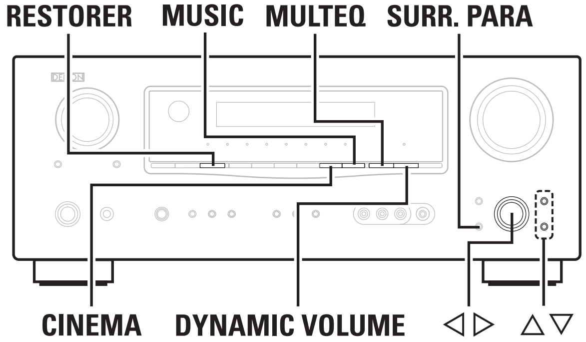
STEREO：

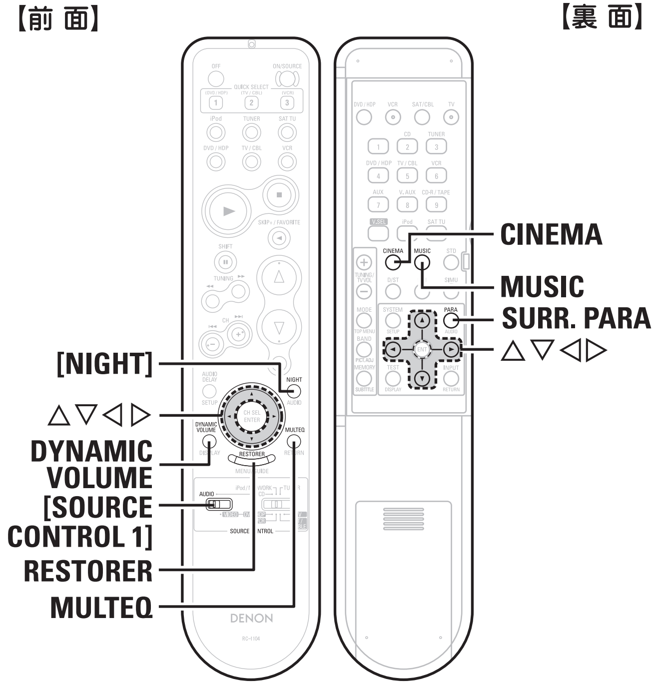
音質調節ができるステレオ再生用のモードです。
フロント左 / 右スピーカーとサブウーハーから音声が出力されます。

Parameter（パラメーター）

取説中のボタン名の表示について

本体とリモコンの両方にあるもの → **BUTTON**
本体のみにあるもの → **<BUTTON>**
リモコンのみにあるもの → **[BUTTON]**





パラメーターの調節のしかた

1 **SURR. PARA を押す。**
パラメーターを表示します。

※ リモコンで操作する場合は、**[SOURCE CONTROL 1]** を “AUDIO” に切り替えてください。

2 **△▽ で、調節するパラメーターを選ぶ。**
現在の再生状況で調節できるパラメーターのみを表示します。

3 **◁ ▷ で、パラメーターを設定する。**
操作 2、3 をくり返し、各項目の設定をします。

❑ 調節を終了するには

- 調節中に、**SURR. PARA** を押す。
- または、約 5 秒間の無調節状態が続くと、それまでの調節を登録し、元のモードに戻ります。

Surround Parameter
（サラウンドパラメーター）

音場効果を調節します。

調節できるパラメーター（項目）は、次の状況によって異なります。
- **入力信号の有り（再生中）/ 無し（停止中など）**
- **入力信号の種類**
- **サラウンドモードの種類**

各サラウンドモードのときの調節できるパラメーターについては、「サラウンドモードとパラメーター 一覧表」（**☞47、48 ページ）をご覧ください。**

1 Mode（モード）
2 Cinema EQ（シネマ EQ）
3 D.Comp（ダイナミックレンジコンプレッション）
4 LFE（ローフレケンシーエフェクト）
5 Center Image（センターイメージ）
6 Panorama（パノラマ）
7 Dimension（ディメンション）
8 Center Width（センター幅）
9 Delay Time（ディレイタイム）
10 Effect Level（エフェクトレベル）
11 Room Size（ルームサイズ）
12 SW ATT（サブウーハーアッテネーション）
13 Subwoofer（サブウーハー）
14 Tone Control（トーンコントロール）
15 Bass（低音）
16 Treble（高音）
17 MultEQ
18 Dynamic EQ
19 Dynamic Volume
20 DV Setting（Dynamic Volume の設定）
21 RESTORER
22 Night Mode（ナイトモード）
23 Default（初期化）

1 Mode（モード）

再生する映画ソースや音楽ソースなどに合わせてモードを選びます。

❑PLⅡ モード時

【選択できる項目】

Cinema：映画ソース用のモードです。
Music：音楽ソース用のモードです。
Game：ゲームソース用のモードです。
PL：ドルビープロロジック再生モードです。（4 チャンネル（フロント L、フロント R、センター、サラウンド（モノ））再生 ）

❑DTS NEO:6 モード時

【選択できる項目】

Cinema：映画ソース用のモードです。
Music：音楽ソース用のモードです。

本体やリモコンでも操作できます

“Cinema” モードまたは “Music” モードは、本体やリモコンで操作できます。

CINEMA または **MUSIC** を押す。

“Music” モードは、ステレオ音楽成分を多く含む映画ソースにも効果的です。

2 Cinema EQ（シネマ EQ）

映画のセリフの高域成分をやわらげ、聴きやすくします。

【選択できる項目】

ON：“Cinema EQ” を使用します。
OFF：“Cinema EQ” を使用しません。

3 D.Comp（ダイナミックレンジコンプレッション）

ダイナミックレンジ（静かな音と大きな音のレベル差）を適度に圧縮します。

【選択できる項目】

OFF：ダイナミックレンジを圧縮しません。
Low：調節量を “弱” に設定します。
Mid：調節量を “標準” に設定します。
High：調節量を “強” に設定します。

DTS ソースを再生する場合は、対応するソフトのみ表示します。

4 LFE（ローフレケンシーエフェクト）

低域信号（LFE）レベルの調節をします。

【可変できる範囲】 –10dB ～ 0dB

各プログラムソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。

- ドルビーデジタルソース：“0dB”
- DTS の映画ソース：“0dB”
- DTS の音楽ソース：“–10dB”

5 Center Image（センターイメージ）

センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。

【可変できる範囲】 0.0 ～ 0.3 ～ 1.0

6 Panorama（パノラマ）

フロント左右チャンネルの音場をサラウンドチャンネルまで拡大し、前方の音場イメージを広げます。

【選択できる項目】 ON OFF

7 Dimension（ディメンション）

音場イメージの中心を前方または後方にシフトし、再生バランスを調節します。

【可変できる範囲】 0 ～ 3 ～ 6

8 Center Width（センター幅）

センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。

【可変できる範囲】 0 ～ 3 ～ 7

9 Delay Time（ディレイタイム）

遅延時間を調節し、音場イメージの大きさを広げます。

【可変できる範囲】 0 ms ～ 30 ms ～ 110 ms

10 Effect Level（エフェクトレベル）

エフェクト信号の大きさを調節します。

【可変できる範囲】 1 ～ 10 ～ 15

サラウンド信号の定位感や位相感が不自然に感じる場合は、低いレベルに設定してください。

11 Room Size（ルームサイズ）

音場の広がり感のイメージを選びます。

【選択できる項目】

Small：小さな音場空間のイメージ。
Med-S：やや小さな音場空間のイメージ。
Med：標準な音場空間のイメージ。
Med-L：やや大きな音場空間のイメージ。
Large：大きな音場空間のイメージ。

ご注意

“Room Size” は、再生する部屋の大きさを表すものではありません。

各パラメーターの調節については「パラメーターの調節のしかた」（☞30ページ）をご覧ください。

12 SW ATT（サブウーハーアッテネーション）

外部入力（EXT. IN）端子使用時のサブウーハーチャンネルのレベルを抑えます。

【選択できる項目】

ON：サブウーハーチャンネルからの入力を減衰します。

OFF：サブウーハーチャンネルからの入力を減衰しません。通常はこのモードでお使いください。

オーディオ信号を再生したときに、サブウーハーチャンネルのレベルが大きいと感じる場合は、“ON”に設定してください。

13 Subwoofer（サブウーハー）

サブウーハー出力をするかしないかを設定します。

【選択できる項目】

ON：サブウーハー出力を使用します。

OFF：サブウーハー出力を使用しません。

14 Tone Control（トーンコントロール）

トーンの調節をするかしないかを設定します。

【選択できる項目】

ON：低音や高音のトーンを調節できます。

OFF：トーンの調節をしないで再生します。

DIRECT モード中は、トーンの調節ができません。

ご注意

“Dynamic EQ”の設定が“ON”のときには、設定できません。

15 Bass（低音）

低音のトーンを調節します。

【可変できる範囲】 **–6dB** ~ **0dB** ~ **+6dB**

16 Treble（高音）

高音のトーンを調節します。

【可変できる範囲】 **–6dB** ~ **0dB** ~ **+6dB**

“Bass”および“Treble”は、“Tone Control”の設定が“ON”のときに設定できます。

17 MultEQ

お好みのルーム補正タイプをお選びください。

【選択できる項目】

Audyssey：すべてのスピーカーの周波数特性を最適化します。

Byp. L/R：フロントスピーカー以外のスピーカーの周波数特性を最適に補正します。

Flat：フロント左右スピーカーを除くスピーカーの周波数特性を最適化します。

OFF：イコライザーを使用しません。

Audyssey ⟷ Audyssey Byp. L/R ⟷ Audyssey Flat ⟷ OFF ⟷ Audyssey

本体やリモコンでも操作できます

MULTEQ を押す。

- “Audyssey”、Audyssey Byp. L/R” または“Audyssey Flat”を選ぶと、Audyssey MultEQ 表示が緑色に点灯します。
- オートセットアップをおこなった後、測定したスピーカーの本数を増やさずに、スピーカーの構成、距離、チャンネルレベルおよびクロスオーバー周波数などの設定を変更した場合は、Audyssey MultEQ indicator は赤色に点灯します。

ご注意

- “MultEQ”は、オートセットアップをおこなった後に設定できます。
- 次の場合、“MultEQ”は設定できません。
  - “Auto Setup”が完了していない場合
  - オートセットアップをおこなった後、測定したスピーカーから使用するスピーカーを増やした場合

- “Auto Setup”で“None”と判定されたスピーカーの設定を変更した場合は、“Audyssey”、“Audyssey Byp. L/R”および“Audyssey Flat”を選ぶことはできません。再度オートセットアップをおこなうか、“System Setup” – “Speaker Setup” – “Restore”で、オートセットアップ実行後の設定に戻してください。
- ヘッドホン使用時、“MultEQ”は“OFF”になります。

18 Dynamic EQ

Audyssey Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、ボリュームレベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Dynamic EQ は、Audyssey MultEQ 技術と連動することによりすべてのボリュームレベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供致します。

ご注意

- “Dynamic EQ”は、オートセットアップをおこなった後に設定できます。
- 次の場合、“Dynamic EQ”は設定できません。
  - “Auto Setup”が完了していない場合
  - オートセットアップをおこなった後、測定したスピーカーから使用するスピーカーを増やした場合
- “MultEQ”を“OFF”に設定すると、“Dynamic EQ”は自動的に“OFF”になります。
- “Night Mode”および“Tone Control”との併用はできません。

【選択できる項目】

ON：Dynamic EQ 機能を使用します。

OFF：Dynamic EQ 機能を使用しません。

本体やリモコンでも操作できます

DYNAMIC VOLUME を押す。

Dynamic EQ / Volume : ON → Dynamic EQ : ON / Volume : OFF → Dynamic EQ / Volume : OFF → Dynamic EQ / Volume : ON

オートセットアップ実行前や、オートセットアップ実行後にスピーカーの本数を増やした場合、**DYNAMIC VOLUME** を押すと“Run Audyssey”を表示します。このような場合には、再度オートセットアップをおこなうか、“System Setup” – “Speaker Setup” – “Restore”で、オートセットアップ実行後の設定に戻してください。

各パラメーターの調節については「パラメーターの調節のしかた」（☞30ページ）をご覧ください。

❏各機能の動作条件

- **Dynamic EQ：**
  “MultEQ”を“ON”に設定しているとき
- **Dynamic Volume：**
  “Dynamic EQ”を“ON”に設定しているとき
- **DV setting：**
  “Dynamic Volume”を“ON”に設定しているとき

17 MultEQ
- **18 Dynamic EQ**
  - **19 Dynamic Volume**
    - **20 DV Setting**

19 Dynamic Volume

Audyssey Dynamic Volume は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内におけるボリュームレベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をユーザーの好みのボリューム設定値に自動的に調整する技術です。
また、Dynamic Volume は Audyssey Dynamic EQ の技術をアルゴリズムの中に取り込むことによりボリュームレベルの調整時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

ご注意

- “Dynamic Volume”は、オートセットアップをおこなった後に設定できます。
- 次の場合、“Dynamic Volume”は設定できません。
  - “Auto Setup”が完了していない場合
  - オートセットアップをおこなった後、測定したスピーカーから使用するスピーカーを増やした場合
- “MultEQ”を“OFF”に設定すると、“Dynamic Volume”は自動的に“OFF”になります。
- “Night Mode”および“Tone Control”との併用はできません。

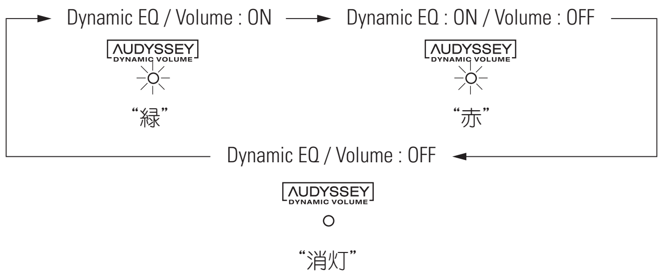
【選択できる項目】

ON ：Dynamic Volume 機能を使用します。
The Dynamic Volume effect will be at the level of the “DV Setting”.

OFF ：Dynamic Volume 機能を使用しません。

本体やリモコンでも操作できます

DYNAMIC VOLUME を押す。



オートセットアップ実行前や、オートセットアップ実行後にスピーカーの本数を増やした場合、**DYNAMIC VOLUME** を押すと“Run Audyssey”を表示します。このような場合には、再度オートセットアップをおこなうか、“System Setup”–“Speaker Setup”–“Restore”で、オートセットアップ実行後の設定に戻してください。

20 DV Setting（Dynamic Volume の設定）

Dynamic Volume の効果を設定します。

選択できる項目】

Midnight ：高設定です。すべての音を一定の大きさにします。

Evening ：中設定です。平均的な音より大きな音と小さな音を調節します。

Day ：低設定です。非常に大きな音と非常に小さな音を調節します。

ご注意

- “DV Setting”は、オートセットアップをおこなった後に設定できます。
- 次の場合、“DV Setting”は設定できません。
  - “Auto Setup”が完了していない場合
  - オートセットアップをおこなった後、測定したスピーカーから使用するスピーカーを増やした場合
  - “Dynamic Volume”の設定が“OFF”の場合

Dynamic EQについて

Audyssey Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、ボリュームレベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Dynamic EQ は、すべてのボリューム変化に応じて自動的に最適な周波数特性とサラウンドレベルに補正します。その結果、どのようにボリュームレベルを変更しても、常に最適な低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを楽しむことができます。また、正しい補正をおこなうために必要不可欠な条件である、入力（再生）されるコンテンツの情報と、実際に視聴する部屋に出力される音圧レベル情報とを組み合わせています。
Dynamic EQ は、Audyssey MultEQ 技術と連動することにより、すべてのボリュームレベルに対して最適なバランスの音質を、すべてのリスナーに提供します。

Dynamic Volumeについて

Audyssey Dynamic Volume は、テレビ番組や CM（コマーシャル）、映画などのコンテンツにおける静かな音のシーンと大きな音のシーンの間におけるボリュームレベルの違いによって発生する問題を解決する技術です。
Dynamic Volume は、入力されるコンテンツを常にモニターし、ユーザーが設定した好みのボリュームレベルに常に自動的に調整することにより、ユーザーからボリューム調整の煩わしさを解放します。再生中のコンテンツの中に含まれる特徴を正確にモニターし、ボリュームの変化が急激であっても、緩やかな変化であってもコンテンツの特徴に忠実に最適なボリューム値（ユーザー設定値）に自動調整をおこないます。
また、Dynamic Volume は Audyssey Dynamic EQ の技術をアルゴリズムの中に取り込むことにより、ボリュームレベルの調整時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

各パラメーターの調節については「パラメーターの調節のしかた」（☞30ページ）をご覧ください。

21 RESTORER

圧縮音声を圧縮前の状態に復元し、低域と高域の量感を補正して豊かに再生します。

【選択できる項目】

OFF：
RESTORER を使用しません。

Mode1（RESTORER 64）：
高域が極端に少ない圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。

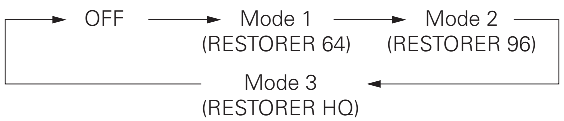
Mode2（RESTORER 96）：
圧縮音声全般に対して、低域と高域を共に適切に補正します。

Mode3（RESTORER HQ）：
高域が十分にある圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。

“iPod”の初期設定は、“Mode3”です。その他は、すべて“OFF”に設定されています。

本体やリモコンでも操作できます

RESTORER を押す。



RESTORER機能について
●MP3、WMA（Windows Media Audio）や MPEG-4 AAC などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。RESTORER は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生することができます。 ●アナログ入力や PCM 信号（fs = 44.1/48kHz）が入力されたときにサラウンドパラメーター内に表示され、設定することができます。

22 Night Mode（ナイトモード）

夜間に小音量で音声を聞くときに設定します。

【選択できる項目】

OFF：設定しません。

Low：調節量を“弱”に設定します。

Mid：調節量を“標準”に設定します。

High：調節量を“強”に設定します。

リモコンでも操作できます

[NIGHT] を押す。



ご注意

- “Dynamic EQ”を“ON”に設定している場合、“Night Mode”は設定できません。
- “Dynamic Volume”を“ON”に設定している場合、“Night Mode”は設定できません。

23 Default（初期化）

設定を初期化します。

【選択できる項目】

ON：初期化します。

OFF：初期化しません。

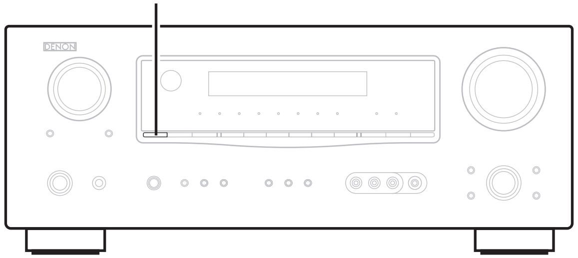
各パラメーターの調節については「パラメーターの調節のしかた」（☞30 ページ）をご覧ください。

Information（情報）

取説中のボタン名の表示について

本体とリモコンの両方にあるもの → **BUTTON**
本体のみにあるもの → **<BUTTON>**
リモコンのみにあるもの → **[BUTTON]**

<STATUS>



本機の各設定情報（Status）や入力信号の情報（Audio Input Signal）をディスプレイに表示します。
<STATUS> を押すたびに、表示する情報を切り替えます。
数秒間表示すると元の表示に戻ります。

【確認できる項目】

- サラウンドモード
- 入力信号名
- ダイアログノーマライゼーション
- 入力ファンクション名
- 入力デジタル端子名
- オーディオディレイ
- トーンコントロール
- 各スピーカーのチャンネルレベル
- シネマイコライザー
- ナイトモード

など

ダイアログノーマライゼーション機能について

ドルビーデジタルソースの再生中に、自動的に動作します。
この機能は、プログラムソースごとに異なる標準信号レベルを自動的に補正します。
補正値は、**<STATUS>** で確認できます。

```
OFFSET  -4dB
```

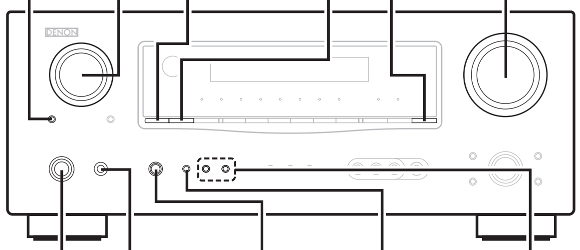
数字は、標準レベルに補正した場合の補正値です。

- 表示する項目は設定中の内容や、入力信号の有無や入力信号の種類などによって異なります。
- 表示された項目の内容については、各設定の説明のページをご覧ください。

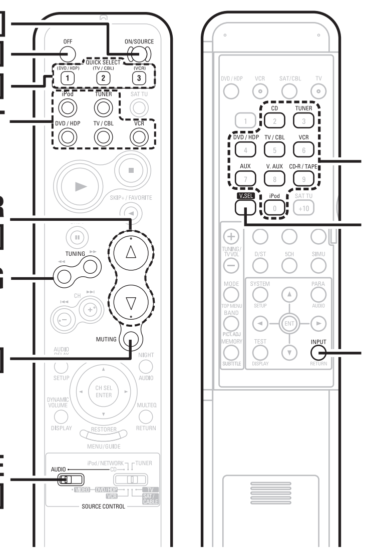
再生のしかた

取説中のボタン名の表示について

本体とリモコンの両方にあるもの ──→ **BUTTON**
本体のみにあるもの ──→ **<BUTTON>**
リモコンのみにあるもの ──→ **[BUTTON]**



【前 面】　【裏 面】



準備

電源を入れる

1 <POWER> を押す。
電源表示が赤色に点灯して、電源がスタンバイ状態になります。

2 <ON/STANDBY> または [ON/SOURCE] を押す。
電源表示が緑色に点滅して、電源が入ります。

※ スタンバイモード時に **[SOURCE SELECT]** を押しても、電源が入ります。この場合、リモコンで選択した入力ソースになります。
※ スタンバイモード時に **[QUICK SELECT]** を押しても、電源が入ります。この場合、リモコンで選択したクイックセレクトモードになります（☞41ページ）。
※ リモコンで操作する場合は、**[SOURCE CONTROL 1]** を“AUDIO”に切り替えてください。

電源を切る

① **<ON/STANDBY>** または **[POWER OFF]** を押す。
　電源がスタンバイ状態になります。
② **<POWER>** を押す。
　電源表示が消灯して、電源が切れます。

ご注意

電源をスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電しています。長期間の外出やご旅行の場合は、**<POWER>** を押して電源を切るか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

入力ソースを選ぶ

SOURCE SELECT で選ぶ。
<SOURCE SELECT> を回すたびに、または **[SOURCE SELECT]** を押すたびに、入力ソースが切り替わります。

※ リモコンで操作する場合は、**[SOURCE CONTROL 1]** を“AUDIO”に切り替えてください。

✎

入力ソースに“Rec Select”を選んでいる場合は、**<SOURCE>** を押してから **<SOURCE SELECT>** を回してください。

入力モードを設定する

INPUT MODE を押す。

押すたびに入力モード表示が切り替わります。

→ Auto → PCM → DTS → Analog → EXT. IN →（Auto に戻る）

※ リモコンで操作する場合は、**[SOURCE CONTROL 1]** を“AUDIO”に切り替えてください。

【選択できる項目】

Auto	：デジタル入力信号の種類を識別し、自動的にデコードして再生します。
PCM	：PCM 信号が入力されたときだけデコードして再生します。
DTS	：DTS 信号が入力されたときだけデコードして再生します。
Analog	：アナログ入力端子からの入力信号のみを再生します。
EXT. IN	：外部入力（EXT. IN）端子からの入力信号のみを再生します。

✎

- デジタル信号が正しく入力されると、ディスプレイの“DIGITAL”表示が点灯します。“DIGITAL”表示が点灯しない場合は、デジタル入力端子の割り当てや接続を確認してください。
- 入力モードが“EXT. IN”の場合は、サラウンドモードの設定ができません。
- “PCM”や“DTS”は、それぞれの入力信号を再生するときのみ設定してください。

再生中にできる操作

主音量の調節

<MASTER VOLUME> を回すか、[MASTER VOLUME] を押す。

【可変できる範囲】 **– – –** **–80.0dB ~ +18.0dB**

ご注意

入力された信号とチャンネルレベルの設定などにより、可変できる範囲が異なります。

一時的に音を消す（ミューティング）

[MUTING] を押す。

- ミューティングレベルは、“System Setup” – “Option Setup” – “Mute Level” で設定されたレベルになります。
- 解除するときは、もう一度 **[MUTING]** を押してください。主音量を調節しても解除することができます。

ヘッドホンで音を聴く

本体の PHONES 端子に、ヘッドホンのプラグを差し込む。

自動的にスピーカーおよびプリアウト端子から音が出なくなります。

ご注意

ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

フロントスピーカーを切り替える

<SPEAKERS> の A または B ボタンを押す。

ビデオセレクト機能

音声を聞きながら映像の入力ソースを切り替えます。

好きな映像が表示されるまで、VIDEO SELECT を押す。

※ 解除する場合は、**VIDEO SELECT** で “SOURCE” を選んでください。

※ リモコンで操作する場合は、**[SOURCE CONTROL 1]** を “AUDIO” に切り替えてください。

今再生しているプログラムソースなどを確認する

<STATUS> を押す。

ディスプレイに、現在のプログラムソースや各種設定を表示します。

詳しくは、「Information」をご覧ください（☞35 ページ）。

ディスプレイの明るさを切り替える (ディマー)

<DIMMER> を押す。

通常 → 薄暗い → 暗い → 消灯 → 通常

“消灯” に設定すると、システムセットアップやサラウンドパラメーターなどの操作をおこなうときに “暗い” の状態でディスプレイが点灯します。

映像機器や音声機器の再生

基本操作

1 準備をする。

① DVD や CD などのソフトをセットする。
（☞ 各機器の取扱説明書）

② 映像機器を再生する場合は、モニターの入力を切り替える。（☞ モニターの取扱説明書）

2 <SOURCE SELECT> を回すか、[SOURCE SELECT] を押して、本機の入力ソースを切り替える。

3 再生をはじめる。

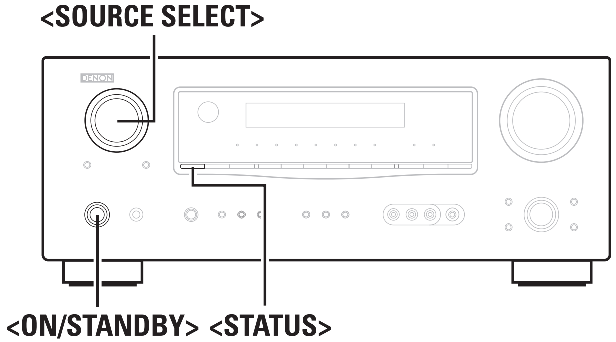
（☞ 各機器の取扱説明書）

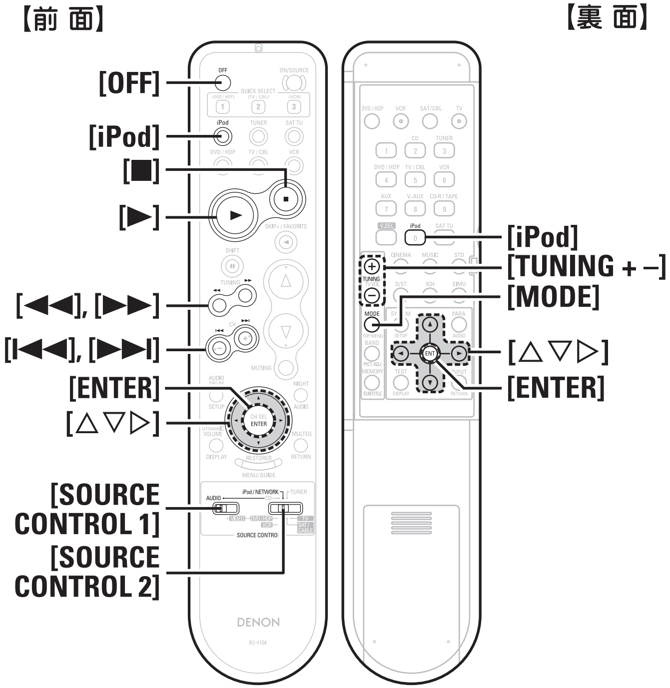
リモコンで外部機器の操作をおこなうことができます。

「リモコン操作」（☞42ページ）をご覧ください。

取説中のボタン名の表示について

本体とリモコンの両方にあるもの → **BUTTON**
本体のみにあるもの → **<BUTTON>**
リモコンのみにあるもの → **[BUTTON]**





iPod® を再生する

iPod 用コントロールドック（ASD-1R、ASD-11R、ASD-3N または ASD-3W、別売り）を使用することにより、iPod の音楽を再生することができます。また、リモコンでも操作することができます。

Made for iPod　iPodは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc. の商標または登録商標です。

※ iPod は、著作権のないコンテンツまたは法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。

準備

1 準備をする。

① DENON 製 iPod 用コントロールドックに、iPod をセットする。（☞iPod 用コントロールドックの取扱説明書）
② iPod 用コントロールドックの入力を割り当てる。
　初期設定では、VCR に iPod 用コントロールドックの入力が割り当てられています。

“System Setup” – “Input Setup” – “iPod Assign”（☞25ページ）

2 <SOURCE SELECT> を回すか、[iPod] を押して、操作 1- ②で割り当てた入力ソースを選ぶ。

3 [SOURCE CONTROL 1] を “AUDIO”、[SOURCE CONTROL 2] を “iPod/NETWORK” に設定する。
（☞42 ページ「リモコン操作」）

4 [MODE] を 2 秒以上長押しして、表示モードを選ぶ。
長押しするたびに、モードが切り替わります。
リモートモード時には、“Remote”を表示します。

【選択できるモード】		ブラウズモード	リモートモード
表示するディスプレイ		本機のディスプレイ	iPod のディスプレイ
再生できるファイル	音声ファイル	○	○
	映像ファイル	○ ＊1	○ ＊2
操作できるボタン	本機のリモコン	○	○
	iPod	×	○

＊1： iPod用コントロールドックASD-3NまたはASD-3Wを使用時
＊2：ASD-1RまたはASD-11RとiPodの組み合わせによっては、映像が出力されない場合があります。

- お買い上げ時は、iPod用コントロールドックをVCR（iPod）端子に接続してお使いいただけます。
- 圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生をするには、RESTORERモードをおすすめします（☞34ページ）。お買い上げ時は“Mode3”になっています。
- iPodは、**<ON/STANDBY>** または **[OFF]** で本機の電源をスタンバイ状態にしてから、取り外してください。iPod dockの入力を割り当てていない入力ソースに切り替えても、iPodを取り外すことができます。
- iPod用コントロールドック ASD-3NまたはASD-3Wを使用する場合は、それぞれの取扱説明書もあわせてご覧ください。

オーディオを聴く

1 **[△▽] で項目を選び、[ENTER] または [▷] で再生したい音楽ファイルを選ぶ。**

2 **[ENTER] または [▷] を押す。**
再生をはじめます。

❏ 一時停止するには
再生中に **[ENTER]** または **[▶]** を押す。
もう一度押すと、再生を再開します。

❏ 早送りや早戻しするには
再生中に **[◀◀]**(早戻し)または **[▶▶]**(早送り)を長押しする。

❏ 頭出しするには
再生中に **[I◀◀]**（前の曲の頭出し）または **[▶▶I]**（次の曲の頭出し）を押す。

❏ 停止するには
再生中に **[ENTER]** を長押しするか、**[■]** を押す。

❏ リピート再生するには
[TUNING –] を押す。

【選択できる項目】 All　One　OFF

❏ シャッフル再生するには
[TUNING +] を押す。

【選択できる項目】 Albums　Songs　OFF

- ブラウズモードの再生中に **<STATUS>** を押すと、タイトル名、アーティスト名およびアルバム名を確認できます。
- ブラウズモードでは、フォルダ名とファイル名を表示できます。半角英数字と一部の記号のみを表示できます。対応していない文字は、“.（ピリオド）”に置き換えて表示します。

ご注意

- iPodの種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。
- 万一、iPodのデータが消失または損傷しても、当社は一切責任を負いません。

iPod の静止画像やビデオを見る

iPod に保存してある写真やビデオのデータをモニターで見ることができます。（スライドショーやビデオ機能がある iPod のみ）

ASD-1R または ASD-11R を使用しているとき

1 **[MODE] を長押しして、Remoteモードにする。**

2 **iPodの画面を見ながら、[△▽]で“写真”または“ビデオ”を選ぶ。**

3 **再生したい画像が表示されるまで、[ENTER] を押す。**

iPod の写真データやビデオデータをモニターに映し出すには、iPod の“スライドショー設定”または“ビデオ設定”の“TV 出力”を“オン”に設定する必要があります。詳しくは、iPod の取扱説明書をご覧ください。

ASD-3N または ASD-3W を使用しているとき

1 **[MODE] を長押しして、ブラウズモードにする。**

2 **ディスプレイを見ながら、[△▽] で“iPod”を選び、[▷] または [ENTER] を押す。**

3 **[△▽] で“ビデオ”を選び、[▷] または [ENTER] を押す。**

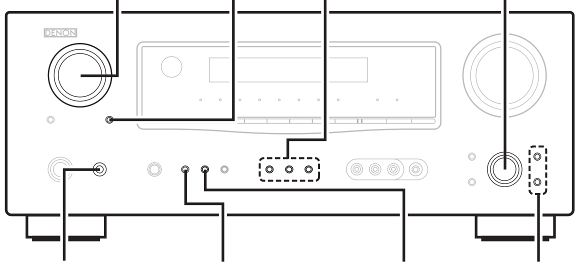
4 **[△▽] で再生したいビデオファイルを選び、[▷] または [ENTER] を押す。**

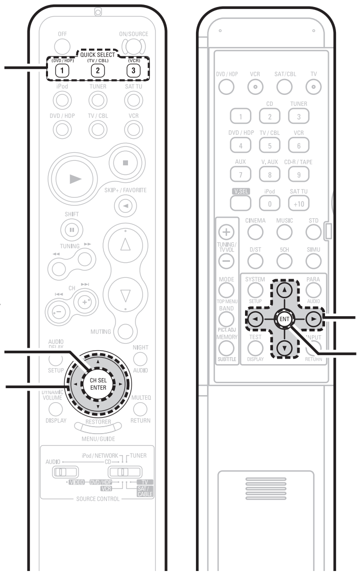
静止画像を見る場合は、ASD-1RまたはASD-11Rと同じ操作をおこなってください。

その他の操作や機能

取説中のボタン名の表示について

本体とリモコンの両方にあるもの ——→ BUTTON
本体のみにあるもの ——→ <BUTTON>
リモコンのみにあるもの ——→ [BUTTON]





その他の操作

外部機器での録音 / 録画（REC OUT モード）

再生中の曲を聴きながら、別のプログラムソースを録音 / 録画することができます。

1 **<REC SELECT> を押す。**

2 **<SOURCE SELECT> を回して、録音/録画したい入力ソースを選ぶ。**

“REC”および選んだソース表示が点灯します。

RECOUT SOURCE ◄─► RECOUT TUNER ◄─► ···· ◄─► RECOUT V.AUX

3 **プログラムソースを再生する。**

操作のしかたは、機器の取扱説明書をご覧ください。

4 **録音/録画をはじめる。**

操作のしかたは、機器の取扱説明書をご覧ください。

- 解除する場合は、**<REC SELECT>** を押してから、ディスプレイに“RECOUT SOURCE”が表示されるまで、**<SOURCE SELECT>** を回してください。
- 現在選ばれている入力信号がデジタル出力端子（OPT-2）から出力されます。
  REC SELECTモードで選ばれている入力ソースと、デジタル出力端子（OPT-2）からの出力は連動しません。
  ※ デジタル信号は、アナログのREC OUT（CDR/TAPEおよびVCR）端子からは出力されません。
- 録音/録画する前に、あらかじめ「試し録音」や「試し録画」をおこなってください。

ご注意

- VCR IN端子から入力される音声信号と映像信号は、VCR OUT端子からは出力されません。CD-R/TAPE IN端子から入力される音声信号は、CD-R/TAPE OUT端子からは出力されません。
- あなたが録音したものは、個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。

便利な機能

チャンネルレベルの調節

再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、各チャンネルレベルの調節をおこなってください。

1 **<SELECT/ENTER> または [CH SELECT/ENTER] を押す。**

`FL   Vol.+ 1.5dB`

2 **△▽、<SELECT/ENTER> または [CH SELECT/ ENTER] でスピーカーを選ぶ。**

ボタンを押すたびに、スピーカーが切り替わります。

3 **◁ ▷ で音量を調節する。**

※ サブウーハーの場合“-12dB”のときに音量を下げる操作をおこなうと、“OFF（なし）”の設定になります。

クイックセレクト機能

現在再生中の入力ソースや音量、サラウンドモード、MultEQ、Dynamic Volume、DV Setting の設定およびフロントスピーカーの設定を記憶します。

1 **入力ソースや入力モード、サラウンドモード、MultEQ、音量を記憶させたい状態に設定する。**

2 **"Memory" が点灯するまで、QUICK SELECT を長押しする。**

再生中の設定が記憶されます。

【お買い上げ時の設定】

	入力ソース	音量
クイックセレクト1	DVD/HDP	–40dB
クイックセレクト2	TV/CBL	–40dB
クイックセレクト3	VCR	–40dB

設定を呼び出すときは、呼び出したい設定が記憶されている **QUICK SELECT** を押してください。

パーソナルメモリープラス機能

最後に選ばれた設定（入力モードやサラウンドモード、MultEQ、Dynamic EQ、Dynamic Volume、オーディオディレイなど）を入力ソースごとに設定します。
入力ソースに切り替えると、自動的に前回使用されたときの設定になります。

サラウンドパラメーター、トーンコントロール、MultEQ の設定および各スピーカーの音量は、サラウンドモードごとに記憶します。

ラストファンクションメモリー

スタンバイにする直前の各種設定を記憶します。
再び電源を入れると、スタンバイにする直前の設定になります。

バックアップメモリー

電源を切ったり、電源コードを抜いたりした場合でも、各種設定を保存して約 1 週間保持します。

マイコンの初期化

表示が正しくない場合や操作ができない場合などにおこないます。
マイコンを初期化すると、各種ボタンの設定内容がすべてお買い上げ時の設定になります。

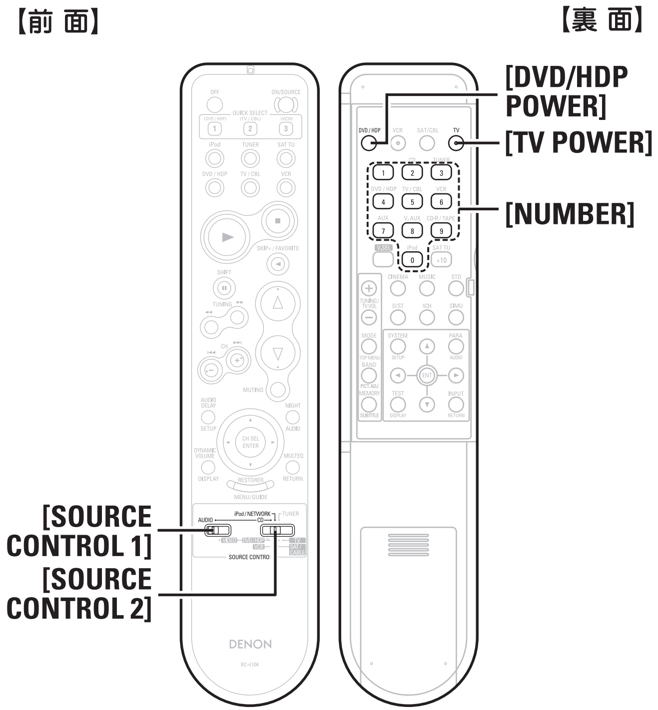
1 **<POWER> で電源を切る。**

2 **<INPUT MODE> と <SPEAKER A> を同時に押しながら、<POWER> を押す。**

3 **ディスプレイ表示が約1秒間隔で点滅したら、2つのボタンから指を離す。**

操作 3 でディスプレイ表示が約 1 秒間隔で点滅しない場合は、もう一度操作 1 からやり直してください。

リモコン操作



✎

お手持ちの機器の形式や年式によって、操作できないボタンがあります。

DENON 製オーディオ機器を操作する

1 **[SOURCE CONTROL 1] を"AUDIO"に切り替える。**

2 **[SOURCE CONTROL 2] を操作したい機器（CD または iPod/NETWORK）に切り替える。**

3 **オーディオ機器を操作する。**

※ 詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
※ 機種によっては操作できないものがあります。

プリセット登録する

- 付属のリモコンにプリセット登録すると、各社の機器の操作ができるようになります。
- 機種によっては操作できない場合や、機器が正常に動作しない場合があります。

1 **[SOURCE CONTROL 1] を"AUDIO"または"VIDEO"に切り替える。**

※ **[SOURCE CONTROL 1]** は次のように切り替えてください。
AUDIO：CD を操作する場合。
VIDEO：DVD/HDP、VCR、SAT/CABLE または TV を操作する場合。

2 **[SOURCE CONTROL 2] を登録したい機器に切り替える。**

3 **[DVD/HDP POWER] と [TV POWER] を同時に押す。**
送信表示が点滅します。

4 **プリセットコード表（☞ 巻末）を参照して、登録する機器のメーカーの番号(3 桁)を [NUMBER] を押して入力する。**

5 **続けて他の機器の登録をおこなう場合：操作 1 ～ 4 をくり返しおこなう。**

✎

- メーカーによってはプリセットコードを数種類持っています。動作しない場合は別のコードを入力してください。
- DVD/HDP および SAT/CABLE は、各々どちらか一方の機器しかプリセット登録できません。
- VDP（ビデオディスクプレーヤー）は、**[SOURCE CONTROL 2]** を"DVD/HDP"に設定したときにプリセットできます。

プリセット登録した機器を操作する

1 **[SOURCE CONTROL 1] を"AUDIO"または"VIDEO"に切り替える。**

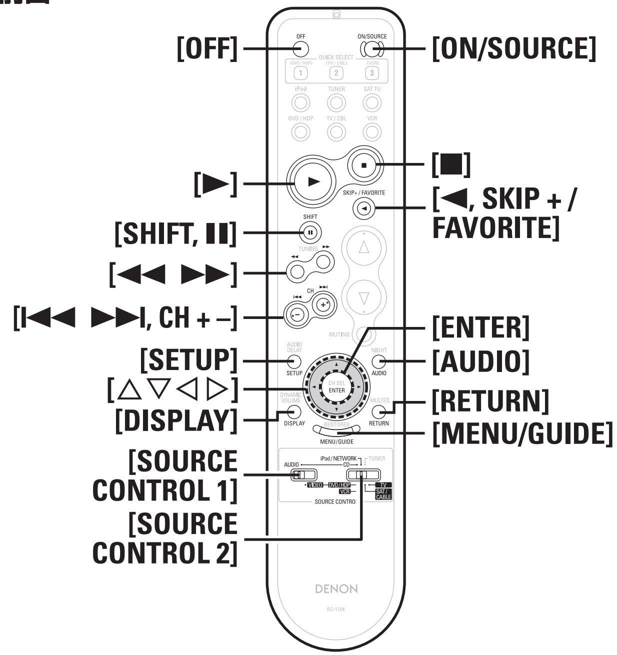
※ **[SOURCE CONTROL 1]** は次のように切り替えてください。
AUDIO：CD を操作する場合。
VIDEO：DVD/HDP、VCR、SAT/CABLE または TV を操作する場合。

2 **[SOURCE CONTROL 2] を操作したい機器に切り替える。**

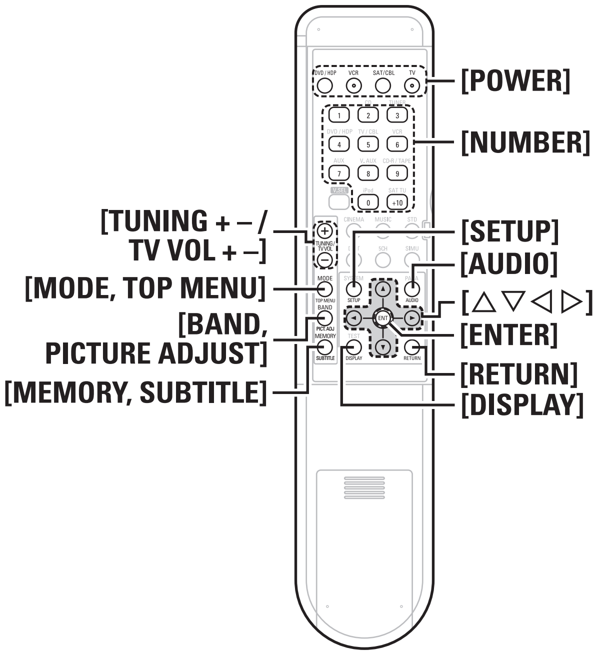
3 **機器を操作する。**

※ 詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。
※ 機種によっては操作できないものがあります。

❏ 前面



❏ 裏面



機器ボタンごとのボタンのはたらき

❏ 前面

操作機器	CD プレーヤー	iPod	DVD プレーヤー	ブルーレイディスクプレーヤー	ビデオディスクプレーヤー（VDP）	ビデオデッキ	衛星レシーバー	ケーブルテレビ	テレビ（モニター）
SOURCE CONTROL 1	**AUDIO**		**VIDEO**						
SOURCE CONTROL 2	**CD**	**iPod/ NETWORK**	**DVD / HDP**			**VCR**	**SAT / CABLE**		**TV**
OFF	–	–	電源オフ		–	–	–	–	–
ON/SOURCE	–	–	電源オン		電源オン / スタンバイ				
▶	再生	再生 / 一時停止	再生				パンチスルー		
■	停止		停止						
SHIFT, ❚❚	一時停止	–	一時停止						
◀, SKIP + / FAVORITE	ディスクスキップ＋	※ Favorites Direct	ディスクスキップ	–	–	–			
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）		マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）						
|◀◀ ▶▶|, CH + –	オートサーチ（頭出し）		オートサーチ（頭出し）			チャンネル切り替え（+、-）			
SETUP	–	–	セットアップ		–	–	–	–	–
△▽◁▷	–	カーソル	カーソル操作		–	–	カーソル操作		
AUDIO	–	–	音声の切り替え		–	–	–	–	–
ENTER	–	確定	設定の確定		–	–	設定の確定		
DISPLAY	–	–	ディスプレイの切り替え		–	–	ディスプレイの切り替え		
RETURN	–	–	リターン		–	–	リターン		
MENU / GUIDE	–	–	メニューの呼び出し		–	–	メニューの呼び出し		

※ iPod 用コントロールドック ASD-3N または ASD-3W を使用時に、**FAVORITE** を操作することができます。

❏ 裏面

操作機器	CD プレーヤー	iPod	DVD プレーヤー	ブルーレイディスクプレーヤー	ビデオディスクプレーヤー（VDP）	ビデオデッキ	衛星レシーバー	ケーブルテレビ	テレビ（モニター）
SOURCE CONTROL 1	AUDIO		VIDEO						
SOURCE CONTROL 2	CD	iPod/ NETWORK	DVD / HDP			VCR	SAT / CABLE		TV
POWER	–	–	電源オン/電源オフ						
NUMBER (0 ~ 9, +10)	–	–	数字入力/選曲			–	チャンネル		
TUNING (+, –) / TV VOL (+, –)	⊕ CD ランダム ⊖ CD リピート	⊕ iPod ランダム ⊖ iPod リピート	⊕ DVD ランダム ⊖ DVD リピート	⊕ ブルーレイディスク ランダム ⊖ ブルーレイディスク リピート	⊕ テレビ音量（+） ⊖ テレビ音量（–）		⊕ DBS 音量（+） ⊖ DBS 音量（–）	⊕ケーブル 音量（+） ⊖ケーブル 音量（–）	⊕テレビ 音量（+） ⊖テレビ 音量（–）
MODE, TOP MENU	–	ページサーチモードの切り替え（1回押し） ブラウズ/リモートモードの切り替え（長押し）	メニューの呼び出し		–	–	メニューの呼び出し		
SETUP	–	–	セットアップ		–	–	–	–	–
△▽◁▷	–	–	カーソル操作		–	–	カーソル操作		
AUDIO	–	–	音声		–	–	–	–	–
BAND, PICTURE ADJUST	–	※1 トップメニュー	画質調整		–	–	–	–	–
ENTER	–	–	設定の確定		–	–	設定の確定		
MEMORY, SUBTITLE	–	※1 お気に入り登録	サブタイトル		–	–	–	–	–
DISPLAY	–	–	ディスプレイの切り替え		–	–	ディスプレイの切り替え		
RETURN	–	–	リターン		–	–	リターン		
初期設定（プリセットコード）	DENON（111）	–	DENON（111）	※2 DENON（121）	–	HITACHI（108）	–	ABC（007）	HITACHI（134）
特記事項	①	–	①, ②			①	①, ③		①, ③

【特記事項】

① それぞれのモードには、一つの機器しかプリセット登録することができません。また、新しいコードをプリセット登録すると前の登録は自動的に消去されます。

② DVD のリモコンボタンは、メーカーによって機能名が異なる場合がありますので、あらかじめご確認ください。

③ TV と SAT/CBL モード には、CD、iPod/NETWORK、TUNER、DVD/HDP、VCR のいずれかのボタンを割り当てることができます（☞44 ページ「パンチスルー機能」）。

※ 1：iPod 用コントロールドック ASD-3N または ASD-3W を使用時に操作できます。

※ 2：プリセットコードの初期設定は、111（DVD プレーヤー）です。ブルーレイディスクプレーヤーの設定で、リモコンコードを“DENON2”に設定した場合は、ブルーレイディスクプレーヤーのプリセットコード“121”を使用してください。

パンチスルー機能

パンチスルー機能は、**[SOURCE CONTROL 2]** が“SAT/CABLE”または“TV”の位置でも CD、iPod/NETWORK、TUNER、DVD/HDP または VCR の次の操作ができます。

- 再生
- 停止
- 一時停止
- ディスクスキップ
- 早送り
- 巻き戻し
- サーチ

※ お買い上げ時は、“設定なし”に設定されています。

1 **[SOURCE CONTROL 1]を“VIDEO”に切り替える。**

2 **[SOURCE CONTROL 2] をパンチスルーさせたい機器（SAT/CABLE または TV）に切り替える。**

3 **[MEMORY] と [RETURN] を同時に押す。**
送信表示が点滅します。

4 **下表を参照して、パンチスルーしたい機器に対応する番号を入力する。**

パンチスルーしたい機器	番号
CD	1
iPod/NETWORK	2
TUNER	3
DVD/HDP	4
VCR	5
設定なし	0

その他の情報

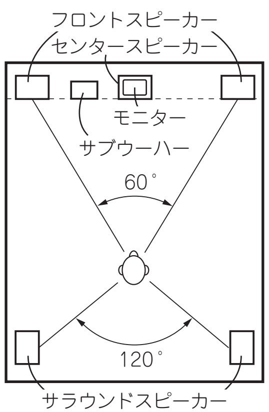
スピーカーの設置について

スピーカーの設置例

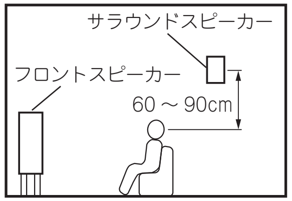
次にスピーカーの配置例をご紹介します。これらを参考に、お手持ちのスピーカーを種類や用途に合わせて配置してください。

基本的なセッティング

DTS 96/24 は、DVD-Video 上でサンプリング周波数 96kHz/ 量子化ビット数 24bit の高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は 5.1ch となります。



【上面から見た図】



【側面から見た図】

サラウンドについて

本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

ドルビーサラウンド

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルは、フロント 3 チャンネル（FL、FR、C）とサラウンド 2 チャンネル（SL、SR）、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されています。
このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。
AV ルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

ドルビープロロジック II

ドルビープロロジック II は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマトリクスデコード技術です。
CD のような通常の音楽は 5 チャンネルの信号にエンコードし、優れた立体音域効果を発揮します。
サラウンドチャンネルはステレオ化、フルバンド化（周波数特性 20Hz ～ 20kHz 以上）し、あらゆるステレオ音源を臨場感豊かな立体音像でお楽しみいただけます。

DTS サラウンド

DTS デジタルサラウンド

DTS デジタルサラウンドは DTS 社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が 44.1kHz または 48kHz、再生チャンネル数が最大 5.1ch のデジタルディスクリートサラウンド音声フォーマットです。

DTS NEO:6™ サラウンド

DTS NEO:6™ は、2 チャンネルソースを 5.1 チャンネルのサラウンド再生するマトリクスデコード技術です。映画再生に適した「DTS NEO:6 Cinema」と、音楽再生に適した「DTS NEO:6 Music」があります。

DTS 96/24

DTS 96/24 は、DVD-Video 上でサンプリング周波数 96kHz/ 量子化ビット数 24bit の高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は 5.1ch となります。

Audyssey

Audyssey MultEQ®

Audyssey MultEQ は、広いリスニングエリア内のどのリスナーにも最適なリスニング環境を提供する補正技術です。
MultEQ は、複数位置での測定に基づいて、時間特性と周波数特性の双方を補正すると共に、全自動でサラウンドシステムセットアップを実行します。

Audyssey Dynamic EQ™

Audyssey Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、ボリュームレベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。Dynamic EQ は、Audyssey MultEQ 技術と連動することによりすべてのボリュームレベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Audyssey Dynamic Volume™

Audyssey Dynamic Volume は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内におけるボリュームレベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をユーザーの好みのボリューム設定値に自動的に調整する技術です。
また、Dynamic Volume は Audyssey Dynamic EQ の技術をアルゴリズムの中に取り込むことによりボリュームレベルの調整時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）

HDMI とは、DVI（Digital Visual Interface）をベースに、民生機器用に機能を最適化した次世代テレビ向けのデジタルインターフェース規格です。
非圧縮のデジタル映像と、マルチチャンネルオーディオの転送が一つの接続でおこなえます。
また、DVI と同様にデジタル画像信号の暗号化方式である著作権保護技術の HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）にも対応しています。

Deep Color

微小な映像データを増やすことで、色の変化をより滑らかにして、異なる色彩間の微妙なグラデーションを表現することが可能になります。また、黒と白の間に従来よりもより多くのグレーを表現することが可能になります。

xvYCC

次世代の色空間 “xvYCC” は現行のハイビジョンテレビの 1.8 倍の色情報を再現することができます。
色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。

MPEG-2 AAC について

MPEG-2　AAC（Advanced Audio Coding） は、MPEG（Moving Picture Experts Group）により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。
高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。
MPEG-2　AAC により地上デジタル放送や BS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

❑ MPEG-2　AAC のスペック（概要）

- アルゴリズム：MAINプロファイル
  LC（Low Complexity）プロファイル
  SSR（Scalable Sampling Rate）プロファイル
- サンプリング周波数：
  8kHzから96kHzまで対応
- チャンネル数：最大48チャンネルのマルチチャンネル伝送に対応
- その他の機能：LFE（Low Frequency Effect）サポート
  マルチリンガル（複数言語）サポート

❑ 米国におけるパテントナンバー

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

サラウンドパラメーター一覧表

サラウンドモード	信号と調節可能なモード											
	チャンネル出力				パラメーター　※（　）内は初期値							
	フロント左 / 右	センター	サラウンド 左 / 右	サブウーハー	D. Comp *1	LFE *1	Cinema EQ	Mode	Room Size	Effect Level	Delay Time	Subwoofer
DIRECT	○	×	×	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	×	×	×	×	○
STEREO	○	×	×	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	×	×	×	×	×
EXT. IN	○	◎	◎	◎	×	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY PRO LOGIC II	○	◎	◎	◎	○ (OFF)	×	○ (OFF, 注1)	○	×	×	×	×
DTS NEO:6	○	◎	◎	◎	○ (OFF)	×	○ (OFF, 注2)	○	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	○ (OFF)	×	×	×	×	×
DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	×	○ (0 dB)	○ (OFF)	×	×	×	×	×
5CH STEREO	○	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	×	×	×	×	×
ROCK ARENA	○	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	×	○ (Medium)	○ (10)	×	×
JAZZ CLUB	○	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	×	○ (Medium)	○ (10)	×	×
MONO MOVIE	○	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	×	○ (Medium)	○ (10)	×	×
VIDEO GAME	○	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	×	○ (Medium)	○ (10)	×	×
MATRIX	○	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	×	×	×	○ (30 ms)	×
VIRTURL	○	×	×	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	×	×	×	×	×

○：信号有り / 制御可能
×： 信号無し / 制御不可能
◎：スピーカー有り無しの設定により、ON/OFF 可能

○：有効
×： 無効
注 1： “System Setup” – “Surround Parameter” – “Mode” の設定が “Cinema” または “PL” のときに選択できます (☞31 ページ)。
注 2： “System Setup” – “Surround Parameter” – “Mode” の設定が “Cinema” のときに選択できます (☞31 ページ)。
*1： ドルビーデジタルおよび DTS 信号再生時

サラウンドモード	信号と調節可能なモード											
	パラメーター　※（　）内は初期値											
	PRO LOGIC II MUSIC モードのみ			NEO:6 MUSIC モードのみ	EXT. INのみ	Tone Control (注5)	Night Mode (注5)	MultEQ	Dynamic EQ (注6)	Dynamic Volume (注7)	DV Setting	RESTORER
	Panorama	Dimension	Center Width	Center Image	SUBWOOFER ATT.							
DIRECT	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (OFF, 注4)	○ (ON, 注4)	○ (OFF, 注4)	○ (Midnight, 注8)	×
STEREO	×	×	×	×	×	○ (0 dB)	○ (OFF)	○ (OFF, 注9)	○ (ON, 注9)	○ (OFF, 注9)	○ (Midnight, 注8)	○ (OFF, 注10)
EXT. IN	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY PRO LOGIC II	○ (OFF)	○ (3)	○ (3)	×	×	○ (0 dB)	○ (OFF)	○ (OFF, 注9)	○ (ON, 注9)	○ (OFF, 注9)	○ (Midnight, 注8)	○ (OFF, 注10)
DTS NEO:6	×	×	×	○ (0.3)	×	○ (0 dB)	○ (OFF)	○ (OFF, 注9)	○ (ON, 注9)	○ (OFF, 注9)	○ (Midnight, 注8)	○ (OFF, 注10)
DOLBY DIGITAL	×	×	×	×	×	○ (0 dB)	○ (OFF)	○ (OFF, 注9)	○ (ON, 注9)	○ (OFF, 注9)	○ (Midnight, 注8)	×
DTS SURROUND	×	×	×	×	×	○ (0 dB)	○ (OFF)	○ (OFF, 注9)	○ (ON, 注9)	○ (OFF, 注9)	○ (Midnight, 注8)	×
5CH STEREO	×	×	×	×	×	○ (0 dB)	○ (OFF)	○ (OFF, 注9)	○ (ON, 注9)	○ (OFF, 注9)	○ (Midnight, 注8)	○ (OFF, 注10)
ROCK ARENA	×	×	×	×	×	○ (注3)	○ (OFF)	○ (OFF, 注9)	○ (ON, 注9)	○ (OFF, 注9)	○ (Midnight, 注8)	○ (OFF, 注10)
JAZZ CLUB	×	×	×	×	×	○ (0 dB)	○ (OFF)	○ (OFF, 注9)	○ (ON, 注9)	○ (OFF, 注9)	○ (Midnight, 注8)	○ (OFF, 注10)
MONO MOVIE	×	×	×	×	×	○ (0 dB)	○ (OFF)	○ (OFF, 注9)	○ (ON, 注9)	○ (OFF, 注9)	○ (Midnight, 注8)	○ (OFF, 注10)
VIDEO GAME	×	×	×	×	×	○ (0 dB)	○ (OFF)	○ (OFF, 注9)	○ (ON, 注9)	○ (OFF, 注9)	○ (Midnight, 注8)	○ (OFF, 注10)
MATRIX	×	×	×	×	×	○ (0 dB)	○ (OFF)	○ (OFF, 注9)	○ (ON, 注9)	○ (OFF, 注9)	○ (Midnight, 注8)	○ (OFF, 注10)
VIRTURL	×	×	×	×	×	○ (0 dB)	○ (OFF)	○ (OFF, 注9)	○ (ON, 注9)	○ (OFF, 注9)	○ (Midnight, 注8)	○ (OFF, 注10)

○：制御可能
×：制御不可能
注 3： 低音 +6dB、高音 +4dB
注 4： "System Setup" – "Option Setup" – "Direct Mode Setup" を "ON" に設定した場合、かつ "Auto Setup" 実行後。
注 5： "System Setup" – "Surround Parameter" – "Dynamic EQ" の設定が "OFF" のときに選択できます (☞32 ページ)。
注 6： "System Setup" – "Surround Parameter" – "MultEQ" の設定が "ON" のときに選択できます (☞32 ページ)。
注 7： "System Setup" – "Surround Parameter" – "Dynamic EQ" の設定が "ON" のときに選択できます (☞32 ページ)。
注 8： "System Setup" – "Surround Parameter" – "Dynamic Volume" の設定が "ON" のときに表示します。
注 9： オートセットアップ実行後に表示。
注 10：入力信号が "Analog" または "PCM 44.1/48 kHz" のときに表示。

入力信号に対するサラウンドモード表示

ボタン			入力信号										
	サラウンドモード					DTS		DOLBY DIGITAL			MPEG-2 AAC		
			ANALOG	LINEAR PCM	LINEAR PCM (Multi ch)	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4ch)	DOLBY DIGITAL (4/3ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	AAC (5.1ch)	AAC (2ch)	AAC (1+1ch)
STANDARD													
	DTS SURROUND												
		DTS SURROUND	×	×	×	◎	×	×	×	×	×	×	×
		DTS 96/24	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	×	×
		DTS NEO:6 CINEMA	○	○	×	×	×	×	×	○	×	○	×
		DTS NEO:6 MUSIC	○	○	×	×	×	×	×	○	×	○	×
	DOLBY SURROUND												
		DOLBY DIGITAL	×	×	×	×	×	◎	◎	×	×	×	×
		DOLBY PLII CINEMA	○	○	×	×	×	×	×	◎	×	○	×
		DOLBY PLII MUSIC	○	○	×	×	×	×	×	○	×	○	×
		DOLBY PLII GAME	○	○	×	×	×	×	×	○	×	○	×
		DOLBY PRO LOGIC	○	○	×	×	×	×	×	○	×	○	×
	AAC												
		MPEG2 AAC	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	◎
DIRECT													
	DIRECT		○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
DSP SIMULATION													
	5CH STEREO		○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
	ROCK ARENA		○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
	JAZZ CLUB		○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
	MONO MOVIE		○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
	VIDEO GAME		○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
	MATRIX		○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
	VIRTUAL		○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
STEREO													
	STEREO		◎	◎	×	○	○	○	○	○	○	○	○

◎：初期状態で選ばれるモード
○：選択可能なモード
×： 選択不可能なモード

故障かな？と思ったら

❏ **各接続は正しいですか**
❏ **取扱説明書に従って正しく操作していますか**
❏ **スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか**

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

【共通】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
本機が正常に動作しない。	●外部からのノイズや妨害によって本機が誤動作している。	●マイコンを初期化してください。	41
電源が入らない。または、入れてもすぐに切れる。	●電源コードの差し込みが不完全である。	●本機のリアパネルおよび電源コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。	16
スピーカーから音が出ない。	●入力機器との接続またはスピーカーケーブルの接続が不完全である。 ●再生したい機器と入力ソースが合っていない。 ●主音量が小さすぎる。 ●消音（ミューティング）モードになっている。 ●ヘッドホンを接続している。 ●デジタル信号が入力されていない。 ●デジタル入力端子が割り当てられている端子と入力モードが合っていない。	●接続を確認してください。 ●接続を確認して、適切な入力ソースを選んでください。 ●主音量を適切な大きさに調節してください。 ●消音（ミューティング）モードを解除してください。 ●ヘッドホンを外してください。ヘッドホンを接続していると、スピーカーやプリアウト端子から音が出なくなります。 ●接続を確認し、デジタル入力の設定をした入力ソースを選んでください。 ●入力モードを設定してください。	11 ～ 16 36 37 37 37 25 36
ディスプレイの表示が消える。	●ディマー機能で、本機のディスプレイ表示を“消灯”にしている。	●“消灯”以外の設定にしてください。	37

症 状	原 因	対 策	関連ページ
ディスプレイが“DOLBY DIGITAL”の表示にならない。	●DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定が正しくない。	●DVD プレイヤーの音声出力の設定を確認してください。詳しくは、DVD プレーヤーの取扱説明書をお読みください。	—
本機をご使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 2 秒間隔で、赤色に点滅している。	●機器内部の温度上昇により、保護回路が働いている。	●一度電源を切って、本体の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。 ●本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	— —
本機をご使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	●指定されたインピーダンス以下のスピーカーを使用している。 ●スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路が働いている。	●スピーカーは、指定のインピーダンスのものを使用してください。 ●電源コードを抜き、芯線をしっかりとより直すか、端末処理をするなどとした後で、もう一度接続し直してください。	12 12
電源を入れても、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	●本機のアンプ回路が故障している。	●電源を切り、当社の修理相談窓口までご連絡ください。	–

【リモコン】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
リモコンを操作しても、正常に動作しない。	●乾電池が消耗している。	●新しい乾電池と交換してください。	6
	●本体から離れすぎているか、角度が良くない。	●リモコンは、本機から約 7 メートルおよび 30° 以内の範囲で操作してください。	6
	●本機とリモコンの間に障害物がある。	●障害物を取り除いてください。	6
	●乾電池の ⊕ と ⊖ が正しくセットされていない。	●正しい極性でセットしてください。	6
	●本機のリモコン受光部に強い光（直射日光、インバーター式蛍光灯の光など）が当たっている。	●受光部に強い光が当たらない場所に設置してください。	6
	●本体とリモコンのリモート ID が合っていない。	●リモート ID を“1”に設定してください。	27
	●**SOURCE CONTROL** スイッチが正しい位置に設定されていない。	●**SOURCE CONTROL** スイッチを操作する用途にあわせて正しい位置に設定してください。	38、42 ～ 44

【オーディオ】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
センタースピーカーから音が出ない。	●テレビや AM 放送などのモノラル音源を、“STANDARD”（Dolby/DTS Surround）モードで再生している。	●モノラル音源を再生する場合は、“STANDARD”（Dolby/DTS Surround）以外のサラウンドモードを選んでください。	28
サラウンドスピーカーから音が出ない。	●サラウンドモードが、2 チャンネル再生用（“STEREO”または“DIRECT”）になっている。	●サラウンド再生用のモードにしてください。	28
サブウーハーから音が出ない。	●サブウーハーの電源が入っていない。	●サブウーハーの電源を入れてください。	—
	●“Speaker Configuration” の “Subwoofer”を“No”に設定している。	●サブウーハーの設定を“Yes”にしてください。	23
	●サブウーハーが正しく接続されていない。	●接続を確認してください。	11
	●サブウーハーの音量が小さくなっている。	●サブウーハーのチャンネルレベルを上げてください。	40
リモコンの **TEST** ボタンを押しても、テストトーンが出力されない。	●サラウンドモードが“STANDARD”（Dolby/DTS Surround）モードになっていない。	●サラウンドモードを“STANDARD”（Dolby/DTS Surround）モードにしてください。	28

症 状	原 因	対 策	関連ページ
DTS 音声が出力されない。	●DVD プレーヤーの音声出力の設定が、ビットストリームになっていない。	●DVD プレーヤーの設定をしてください。詳しくは、ご使用のプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。	—
	●DVD プレーヤーが DTS 音声の再生に対応していない。	●DTS 対応のプレーヤーをご使用ください。	—
	●入力モードの設定が、“PCM”になっている。	●デコードモードを“Auto”または“DTS”にしてください。	36

【ビデオ】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
映像が映らない。	●本機の映像出力端子とモニターの入力端子の接続が不完全である。	●接続を確認してください。	12 ～ 15
	●本機と接続したモニターの入力端子が入力設定と合っていない。	●プレーヤーとの接続がコンポーネント端子の場合、モニターとの接続もコンポーネント端子でなければ映像が映りません。接続を確認してください。	—
DVD から VCR にダビングできない。	—	●故障ではありません。ほとんどの映画ソフトには、コピー防止信号が入っているので、ダビングすることはできません。	—

【HDMI】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
HDMI オーディオ信号がスピーカーに出力されない。	—	●HDMI 端子から入力されたオーディオ信号は、本機で再生することはできません。本機と接続しているスピーカーから音声を出力したい場合は、アナログまたはデジタルオーディオの接続が必要です。	12、13
HDMI 接続で映像が映らない。	●HDMI 端子の接続が不完全である。	●接続を確認してください。	12、13
	●HDMI の入力設定が合っていない。	●“Input Setup” で HDMI 接続している端子を選んでください。	25
	●接続されたプレーヤーなどの出力フォーマット（HDMI FORMAT）とモニター側の入力対応フォーマットが合っていない。	●接続されたプレーヤーなどの出力フォーマット（HDMI FORMAT）とモニターの入力対応フォーマットが合っているかを確認してください。	12、13
HDMI 接続しているテレビから音声が出力されない。	●HDMI の入力設定が合っていない。	●HDMI の入力設定を確認してください。	25

【iPod】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
iPod が再生できない。	●“iPod Assign” で割り当てた入力ソースと合っていない。	●“iPod Assign” で割り当てた端子に接続し、入力ソースを切り替えてください。	25
	●ケーブルが正しく接続されていない。	●接続をやり直してください。	14
	●iPod 用コントロールドックの AC アダプターがコンセントに挿入されていない。	●AC アダプターを挿入していない場合は、本機と通信することができません。	—

保証と修理について

保証書

この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から１年間です。

❏ 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は、有料修理になりますので、ご注意ください。

❏ 保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。

有料修理の料金については『製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内』に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

修理を依頼されるとき

❏ 修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

❏ 修理を依頼されるとき

- 添付の『製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内』に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名……… 取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号… 保証書または製品背面（または底面や側面）に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後８年です。

お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

主な仕様

❑オーディオ部

●パワーアンプ部

定格出力：	フロント（A、B）：	75W + 75W （負荷 8Ω、20Hz ～ 20kHz T.H.D 0.08%） 130W + 130W （負荷 6Ω、JEITA）	
	センター：	75W （負荷 8Ω、20Hz ～ 20kHz T.H.D 0.08%） 130W （負荷 6Ω、JEITA）	
	サラウンド：	75W + 75W （負荷 8Ω、20Hz ～ 20kHz T.H.D 0.08%） 130W + 130W （負荷 6Ω、JEITA）	
出力端子：	フロント：	A または B	6 ～ 16Ω
		A + B	12 ～ 16Ω
	センター / サラウンド：		6 ～ 16Ω

●アナログ部

入力感度 / 入力インピーダンス：	200mV / 47kΩ
周波数特性：	10Hz ～ 100kHz：+1, -3dB（DIRECT モード時）
S/N 比：	98dB（JIS-A、DIRECT モード時）

❑ビデオ部

●標準映像端子

入出力レベル / インピーダンス：	1Vp-p/75Ω	
周波数特性：	5Hz ～ 10MHz：+1、-3dB	

●S 映像端子

入出力レベル / インピーダンス：	Y（輝度）信号：	1Vp-p/75Ω
	C（色）信号：	0.286Vp-p/75Ω
周波数特性：	5Hz ～ 10MHz：	+1、-3dB

●色差（D）映像端子

入出力レベル / インピーダンス：	Y（輝度）信号：	1Vp-p/75Ω
	PB/CB（青色）信号：	0.7Vp-p/75Ω
	PR/CR（赤色）信号：	0.7Vp-p/75Ω
周波数特性：	5Hz ～ 30MHz：	+0、-3dB

❑総合

電源：	AC 100V　50/60Hz
消費電力：	195W（電気用品安全法による） 0.3W（スタンバイ時）
最大外形寸法：	434（幅）× 171（高さ）× 377（奥行き）mm
質量：	10.7kg

❑リモコン（RC-1104）

乾電池：	R6（単 3 形）乾電池 2 本使用
最大外形寸法：	52（幅）× 243（高さ）× 21（奥行き）mm
質量：	184g（乾電池を含む）

※ JEITA：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は日本国内仕様です。必ず AC100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。

Blu-Ray Disc Player / DVD Player

A	Aiwa	009
D	Denon	014, **[111]**＊, 121
H	Hitachi	010
J	JVC	006, 011
K	Konka	012, 013
M	Magnavox	005
	Mitsubishi	004
P	Panasonic	014
	Philips	005, 015, 016, 017
	Pioneer	003, 008
S	Sanyo	018
	Sony	002, 019, 020
T	Toshiba	001, 021, 022
Z	Zenith	023

VDP

D	Denon	028, 029, 112
M	Magnavox	026
	Mitsubishi	028
P	Panasonic	029, 030
	Philips	026
	Pioneer	028, 031
R	RCA	032
S	Sony	033, 034, 035, 036

VCR

A	Admiral	081
	Aiko	095
	Aiwa	009
	Akai	026, 027, 070, 072, 082, 083, 084
	Alba	055
	Amstrad	009
	ASA	042
	Asha	087
	Audio Dynamic	005, 085
	Audiovox	088
	Beaumark	087
	Broksonic	086, 093
C	Calix	088
	Candle	006, 087, 088, 089, 090
	Canon	049, 057
	Capehart	025, 055, 056, 071
	Carver	015
	CCE	095
	Citizen	006, 007, 087, 088, 089, 090, 095
	Craig	007, 087, 088, 091, 115
	Curtis Mathes	006, 049, 073, 080, 087, 090, 092
	Cybernex	087
D	Daewoo	025, 055, 059, 074, 089, 093, 095, 096
	Daytron	025, 055
	DBX	005, 085
	Dumont	053
	Dynatech	009
E	Electrohome	001, 088, 097
	Electrophonic	088
	Emerson	001, 009, 017, 027, 086, 088, 089, 092, 093, 097, 100, 101, 102, 103, 104, 117
F	Fisher	009, 028, 031, 053, 054, 091, 099, 115
G	GE	007, 011, 049, 050, 051, 052, 073, 080, 087
	Go Video	047, 048
	Goldstar	000, 006, 012, 062, 088
	Gradiente	094
	Grundig	042
H	Harley Davidson	094
	Harman Kardon	040, 062
	Hi-Q	091
	Hitachi	009, 013, 023, 026, 058, **[108]**＊, 109, 110, 111
J	JC Penny	004, 005, 007, 023, 028, 049, 062, 085, 087, 088
	Jensen	013, 026
	JVC	004, 005, 006, 026, 029, 043, 044, 045, 046, 085
K	Kenwood	004, 005, 006, 026, 029, 033, 045, 085, 090
	Kodak	088
L	Lloyd	009, 094
	LXI	088
M	Magnavox	015, 016, 042, 049, 063, 106
	Magnin	087
	Marantz	004, 005, 006, 015, 042, 049, 085, 090
	Marta	088
	MEI	049
	Memorex	009, 033, 049, 053, 060, 081, 087, 088, 091, 094, 115
	Metz	123, 124, 125, 126, 127, 128
	MGA	001, 017, 027, 041, 097
	MGN Technology	087
	Midland	011
	Minolta	013, 023
	Mitsubishi	001, 003, 008, 013, 014, 017, 027, 029, 039, 040, 041, 045, 097
	Motorola	081
	Montgomery Ward	001, 002, 007, 009, 049, 063, 081, 115, 117
	MTC	009, 087, 094
	Multitech	007, 009, 011, 087, 090, 094
N	NAD	038
	NEC	004, 005, 006, 018, 026, 029, 045, 061, 062, 085
	Nikko	088
	Noblex	087
O	Optimus	081, 088
	Optonica	021
P	Panasonic	024, 049, 064, 066, 067, 068, 069, 107
	Perdio	009
	Pentax	009, 013, 023, 058, 090
	Philco	015, 016, 049
	Philips	015, 021, 042, 049, 105
	Pilot	088
	Pioneer	005, 013, 029, 036, 037, 038, 045, 085
	Portland	025, 055, 090
	Proscan	063, 080
	Pulsar	060
Q	Quartz	033
	Quasar	034, 035, 049
R	Radio Shack	001, 002, 021, 081, 087, 088, 091, 094, 097, 098, 115
	Radix	088
	Randex	088
	RCA	007, 013, 019, 023, 058, 063, 064, 065, 073, 080, 082, 087
	Realistic	009, 021, 031, 033, 049, 053, 081, 087, 088, 091, 094, 097, 098
	Ricoh	055
S	Salora	033, 041
	Samsung	007, 011, 051, 059, 070, 083, 087, 089, 113
	Sanky	081
	Sansui	005, 026, 029, 045, 061, 085, 114
	Sanyo	032, 033, 053, 087, 091, 115, 116
	SBR	042
	Scott	017, 020, 086, 089, 093, 117
	Sears	013, 023, 028, 031, 033, 053, 054, 088, 091, 098, 099, 115
	Sentra	055
	Sharp	001, 002, 021, 097
	Shogun	087
	Sony	075, 076, 077, 078, 079, 121, 122
	STS	023
	Sylvania	009, 015, 016, 017, 041, 049, 094
	Symphonic	009, 094
T	Tandy	009
	Tashiko	009, 088
	Tatung	004, 026, 030
	Teac	004, 009, 026, 094
	Technics	024, 049
	TMK	087, 092
	Toshiba	013, 017, 020, 041, 059, 089, 098, 099, 117
	Totevision	007, 087, 088
U	Unirech	087
V	Vecrtor Research	005, 062, 085, 089, 090
	Victor	005, 045, 046, 085
	Video Concepts	005, 027, 085, 089, 090
	Videosonic	007, 087
W	Wards	013, 021, 023, 087, 088, 089, 091, 094, 097, 118, 119, 120
X	XR-1000	094
Y	Yamaha	004, 005, 006, 026, 062, 085
Z	Zenith	060, 078, 079

Television

A	Admiral	045, 121
	Adventura	122
	Aiko	054
	Akai	016, 027, 046
	Alleron	062
	A-Mark	007
	Amtron	061
	Anam	006, 007, 036
	Anam National	061, 147
	AOC	003, 007, 033, 038, 039, 047, 048, 049, 133
	Archer	007
	Audiovox	007, 061
B	Bauer	155
	Belcor	047
	Bell & Howell	045, 118
	Bradford	061
	Brockwood	003, 047
C	Candle	003, 030, 031, 032, 038, 047, 049, 050, 122
	Capehart	003
	Celebrity	046
	Circuit City	003
	Citizen	029, 030, 031, 032, 034, 038, 047, 049, 050, 054, 061, 095, 122, 123
	Concerto	031, 047, 049
	Colortyme	003, 047, 049, 135
	Contec	013, 051, 052, 061
	Cony	051, 052, 061
	Craig	004, 061
	Crown	029
	Curtis Mathes	029, 034, 038, 044, 047, 049, 053, 095, 118
D	Daewoo	027, 029, 039, 048, 049, 054, 055, 106, 107, 137
	Daytron	003, 049
	Dimensia	044
	Dixi	007, 015, 027
E	Electroband	046
	Electrohome	029, 056, 057, 058, 147
	Elta	027
	Emerson	029, 051, 059, 060, 061, 062, 118, 123, 124, 139, 148
	Envision	038
	Etron	027
F	Fisher	014, 021, 063, 064, 065, 118
	Formenti	155
	Fortress	012
	Fujitsu	004, 062
	Funai	004, 062
	Futuretech	004
G	GE	020, 036, 037, 040, 044, 058, 066, 088, 119, 120, 125, 147
	Goldstar	000, 015, 029, 031, 039, 048, 051, 056, 057, 067, 068, 069, 116
	Grundy	062
H	Hitachi	029, 031, 051, 052, 070, 111, 112, 113, 124, **[134]**＊
	Hitachi Pay TV	151
I	Infinity	017, 071
J	Janeil	122
	JBL	017, 071
	JC Penny	020, 034, 039, 040, 041, 044, 048, 050, 058, 066, 069, 076, 088, 090, 095, 125, 136, 159
	JCB	046
	JVC	019, 051, 052, 072, 073, 091, 117, 126
K	Kawasho	018, 046
	Kenwood	038, 056, 057
	Kloss	010, 032
	Kloss Novabeam	005, 122, 127, 131
	KTV	074, 123
L	Loewe	071
	logik	144
	Luxman	031
	LXI	008, 014, 017, 024, 040, 044, 063, 071, 075, 076, 077, 118, 125
M	Magnavox	005, 010, 017, 030, 033, 038, 050, 056, 071, 078, 079, 085, 089, 108, 109, 110, 127, 131, 132, 145
	Marantz	015, 017, 071, 080
	Matsui	027
	Memorex	014, 027, 045, 083, 118, 144
	Metz	160, 161, 162, 163

	MGA	001, 039, 048, 056, 057, 058, 065, 081, 083
	Midland	125
	Minutz	066
	Mitsubishi	001, 016, 039, 048, 056, 057, 058, 065, 081, 082, 083, 105
	Montgomery Ward	011, 020, 144, 145, 146
	Motorola	121, 147
	MTC	031, 034, 039, 048, 095
N	NAD	008, 075, 076, 128
	National	002, 036, 061, 147
	National Quenties	002
	NEC	031, 038, 039, 048, 057, 084, 086, 135, 147
	Nikko	054
	NTC	054
O	Optimus	128
	Optonica	011, 012, 093, 121
	Orion	004, 139
P	Panasonic	002, 009, 017, 036, 037, 071, 141, 143, 147
	Philco	005, 010, 030, 050, 051, 056, 079, 085, 127, 131, 132, 145, 147
	Philips	005, 015, 017, 050, 051, 056, 078, 087, 088, 089, 131, 132, 147
	Pioneer	124, 128, 142
	Portland	054
	Price Club	095
	Proscan	040, 044, 125
	Proton	035, 051, 092, 129
	Pulsar	042
Q	Quasar	036, 037, 074, 141
R	Radio Shack	011, 044, 063, 093, 118
	RCA	040, 044, 125, 130, 137, 151, 152
	Realistic	014, 063, 093, 118
S	Saisho	027
	Samsung	003, 015, 034, 053, 055, 057, 094, 095, 136, 153
	Sansui	139
	Sanyo	013, 014, 021, 022, 063, 064, 081, 096
	SBR	015
	Schneider	015
	Scott	062
	Sears	008, 014, 021, 022, 023, 024, 025, 040, 052, 057, 062, 063, 064, 065, 073, 075, 076, 097, 098, 125, 159
	Sharp	011, 012, 013, 026, 093, 099, 100, 104, 121
	Siemens	013
	Signature	045, 144
	Simpson	050
	Sony	043, 046, 138, 146, 150
	Soundesign	030, 050, 062
	Spectricon	007, 033
	Squareview	004
	Supre-Macy	032, 122
	Supreme	046
	Sylvania	005, 010, 017, 030, 078, 079, 085, 089, 101, 127, 131, 132, 145, 155
	Symphonic	004, 148
T	Tandy	012, 121
	Tatung	036, 124
	Technics	037
	Teknika	001, 030, 032, 034, 052, 054, 078, 083, 095, 144, 156, 157
	Tera	035, 129
	THOMSON	165, 166
	Toshiba	008, 014, 034, 063, 075, 076, 095, 097, 136, 158, 159
U	Universal	020, 066, 088
V	Victor	019, 073, 126
	Video Concepts	016
	Viking	032, 122
W	Wards	005, 045, 066, 078, 085, 088, 089, 093, 102, 103, 131, 132, 148
Z	Zenith	042, 114, 115, 140, 144, 149
	Zonda	007

Cable

A	ABC	006, **[007]***, 008, 009
	Archer	010, 011
C	Century	011
	Citizen	011
	Colour Voice	012, 013
	Comtronic	014
E	Eastern	015
G	Garrard	011
	Gemini	030, 033, 034
	General Instrument	030, 031, 032
H	Hytex	006
J	Jasco	011
	Jerrold	009, 016, 017, 026, 032
M	Magnavox	018
	Movie Time	019
N	NSC	019
O	Oak	000, 006, 020
P	Panasonic	001, 005
	Philips	011, 012, 013, 018, 021
	Pioneer	002, 003, 022
R	RCA	029
	Regency	015
S	Samsung	014, 023
	Scientific Atlanta	004, 024, 025
	Signal	014
	SL Marx	014
	Starcom	009
	Stargate	014
T	Teleview	014
	Tocom	007, 016
	TV86	019
U	Unika	011
	United Artists	006
	Universal	010, 011
V	Viewstar	018, 019
Z	Zenith	027, 028

Satellite Receiver

A	Alphastar	054
C	Chaparrali	035, 036
D	Dishnet	053
	Drake	037, 038
E	Echostar Dish	062, 066
G	GE	048, 055, 056
	General Instruments	039, 040, 041
	Grundig	070, 071, 072, 073
H	Hitachi	058, 059
	Hughes Networkr	063, 064, 065, 069
J	JVC	057
K	Kathrein	074, 075, 076, 083
M	Magnavoxl	060
N	Nokia	070, 080, 084, 085, 086
P	Philips	060
	Primestar	051
	Proscan	048, 055, 056
R	RCA	048, 055, 056, 068
	Realistic	042
S	Sierra I	036
	Sierra II	036
	Sierra III	036
	Sony	049, 067
	STS1	043
	STS2	044
	STS3	045
	SRS4	046
T	Technisat	077, 078, 079, 081, 082
	Toshiba	047, 050
	Uniden	061

CD Player

A	Aiwa	001, 035, 043
B	Burmster	002
C	Carvery	003, 035
D	Denon	**[111]***, 044
E	Emerson	004, 005, 006, 007
F	Fisher	003, 008, 009, 010
J	JVC	018, 019
	Kenwood	011, 012, 013, 014, 017
M	Magnavox	006, 015, 035
	Marantz	016, 028, 035
	MCS	016, 024
O	Onkyo	025, 027
	Optimus	017, 020, 021, 022, 023
P	Philips	014, 032, 033, 035
	Pioneer	006, 022, 030
S	Sears	006
	Sony	023, 031
T	Teac	002, 009, 028
	Technics	016, 029, 036
W	Wards	035, 037
Y	Yamaha	038, 039, 040, 041
Z	Zenith	042

プリセットコード	111（初期設定）			014
DENON 製 DVD プレーヤー	DVD-900 DVD-1000 DVD-1400 DVD-1500 DVD-1910 DVD-1920 DVD-1930	DVD-2200 DVD-2800 DVD-2800II DVD-2900 DVD-2910 DVD-2930 DVD-3800	DVD-3910 DVD-3930 DVD-A11 DVD-A1XV DVD-A1 DVD-2500BT DVD-3800BD	DVD-800 DVD-1600 DVD-2000 DVD-2500 DVD-3300

[ ]*：お買い上げ時に設定されているプリセットコードです。

株式会社デノンコンシューマー マーケティング

本　社　〒104-0033 東京都中央区新川 1-21-2
茅場町タワー 14F

お客様相談センター　TEL：045-670-5555

【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】

受付時間　9：30 〜 12：00、12：45 〜 17：30
（当社休日および祝日を除く、月〜金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の URL でもご確認できます。
http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。

購入店名：	電話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：　　年　　月　　日	

Printed in China　5411 10043 108D